

フレキシブルコンテナ計量器

AFK-1000

取扱説明書



株式会社 **サマケ**

安全標示について

ご使用のまえに、この欄を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。

誤った取り扱いをした場合に生じる危険とその程度を、標示で区分して説明しています。
安全標示の種類と意味は以下の通りです。

安全標示が持つ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

安全標示	意 味
 危 険	この標示に従わなかった場合、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険がある内容を示しています。
 警 告	この標示に従わなかった場合、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。
 注 意	この標示に従わなかった場合、人がけがを負う可能性がある内容を示しています。

その他の標示	意 味
<u>取扱注意</u>	この標示に従わなかった場合、製品の損傷や故障、または原料の損傷が生じる可能性がある内容を示しています。
<u>補 足</u>	使用上役立つ補足説明を示します。

重要なお知らせ



- この取扱説明書を読み、理解するまでは、操作および保守・点検を行わないでください。
 - 本製品操作および保守・点検を行うときは、必ずこの取扱説明書に従ってください。
- いつでも調べられるように、この取扱説明書を本製品の近くに大切に保管してください。

- 疑問点または不明な箇所があれば、お買い上げの販売店・JAまたは、巻末の「**緊急時の連絡先**」に問い合わせて回答を得るまで、作業を進めないでください。
- この取扱説明書に従わなかったために、あるいは誤用や無断改造がなされたために、けがを負ったり損害が発生したりしても、販売元・製造元および販売店・JAは一切その責任を負いません。

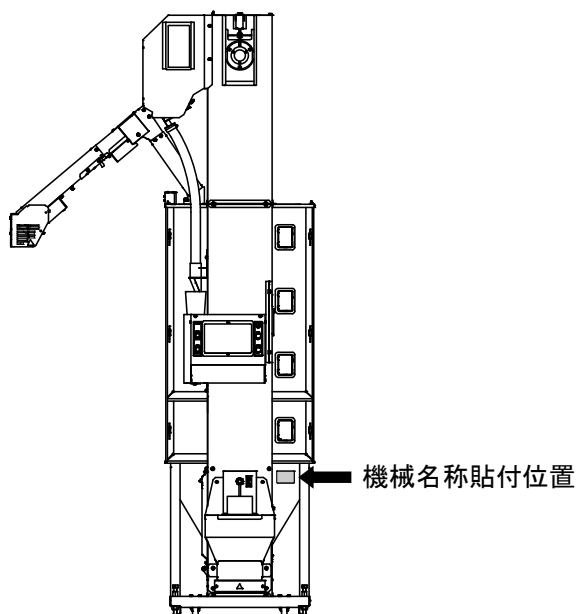
1. 近年、産業機械には、新しい材料や加工方法の採用により、さまざまな危険が数多く発生する傾向にあります。

この機械の取扱上の危険についても、すべての状況を予測することはできません。

そのため、この取扱説明書の記載および機械本体に標示している事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。

したがって、機械の操作または日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および機械本体に標示している事項に限らず、安全対策に関しては十分な配慮が必要です。

2. この取扱説明書について、質問やより詳しい情報が必要な場合は、お買い上げの販売店・ＪＡまたは、巻末の「緊急時の連絡先」にお問い合わせください。
3. この取扱説明書において、ページの「乱丁」や「落丁」などがあった場合は、お取り替えいたします。お手数ですが、お買い上げの販売店またはＪＡまでご連絡ください。
なお、その際は機械名称も併せてご連絡ください。



保証の限定

本製品は厳密な品質管理と検査を経てお届けしたものです。

正常なご使用状態において故障した場合には、納入日より1年間無料で修理いたします。

＜保証事項＞

1. 取扱説明書、本体標示ラベルに従った使用により機械が保証期間内に故障した場合には、保証書をご持参ご提示の上お買い上げの販売店またはJAに修理をご依頼ください。
ただし、保証書のご提示なき場合、消耗部品およびその交換費用は保証期間内でも有償となります。
2. 保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
3. 無料修理期間中でも、**次の場合は有料修理になります。**
 - (1) 誤った使用方法、あるいは取扱上の不注意によって生じた損傷および故障。
 - (2) 不当な修理や改造によって生じた損傷および故障。
 - (3) 火災、公害、塩害、異常電圧などの外部要因、地震、雷、風水害などの天変地異によって生じた損傷および故障。
 - (4) 一度据え付けた後の移動、落下により生じた損傷および故障。
 - (5) 弊社純正部品以外の使用、お買い上げの販売店・JAまたはその指定サービス工場以外での修理による故障。
 - (6) 保証書の紛失、保証書の記入事項または字句を勝手に訂正された場合。
 - (7) 木切れや石などの異物が機械内に入って生じた損傷および故障。

＜免責事項＞

1. 上記(1)から(7)の場合、保証期間内外を問わず、これにより生じる直接および間接損害、その他一切の損害については、何ら責任はないものといたします。
2. お客様が本製品を別のお客様にお譲りになる場合は、必ず、お買い求めいただいた販売店またはJA、もしくは新しく製品をお求めになる販売店またはJAにご相談ください。
お客様が別のお客様に直接お譲りになりますと、製品の状態（修理履歴、移設作業の状態）、付属品（取扱説明書等）の有無を把握できないため、製品の安全性や性能について保証できなくなります。

もくじ

	ページ
安全標示について	i
重要なお知らせ	ii
保証の限定	iv
ご使用のまえに	
安全上の注意事項	1
使用上の注意事項	3
標示ラベルについて	4
各部のなまえ	6
表示箇所・操作箇所	9
機械の据付	15
運転のしかた	
運転前の確認	17
計量の設定	21
運転操作（計量のしかた）	25
お手入れと保管	
掃除	34
保管	38
点検・調整	
点検・調整	39
困ったとき	
困ったときの対処のしかた	44
その他	
エア配管図	47
オプション部品	48
消耗部品	50
仕様	51
機体寸法	52
検定付きはかりについて	54
保証とアフターサービス	55
緊急時の連絡先	巻末

ご使用のまえに

運転のしかた

お手入れと保管

点検・調整

困ったとき

その他

安全上の注意事項



ビニール袋の処分	● 梱包を開梱した後は、機械をおおっているビニール袋で子供が遊ばないように、手の届かない場所に置るか処分してください。
子供を近づけない	● 作業場に、作業に関係ない人は入れないようにしてください。特に子供を遊ばせないように注意してください。
作業に適した服装の着用	● 長い頭髮は束ね、作業に適した袖口のしまった服および底のすべらない靴で作業をしてください。 ● 首や肩にタオルを掛けて作業しないでください。
機械の接地（アース）	● 漏電による感電や火災防止のため、必ず接地（アース）をしてください。接地（アース）工事については、お買い上げの販売店または電気工事店にご相談ください。
漏電ブレーカの設置	● 漏電事故防止のため、元電源に必ず漏電ブレーカを設置してください。 設置については、電気工事店に依頼してください。
運転開始前に周囲の確認	● 電源コードなどにつまつかないように、機械周辺の整理整頓をしてください。 ● 運転は、周囲の安全を確かめてから開始してください。2人以上で作業するときは、お互いに合図を交わしながら行ってください。 ● 機械の上に工具などの物を置いて機械を作動させないでください。
通電部分に触れない	● 元電源を入れた後は、指示計ボックス内部や指示計内部、モータ端子台などの通電部分には、絶対に触れないでください。
カバー類を取り付けて運転	● カバー類はすべて取り付けて運転し、運転中はカバー類を取り外さないでください。 (駆動部だけがををするおそれがあります)

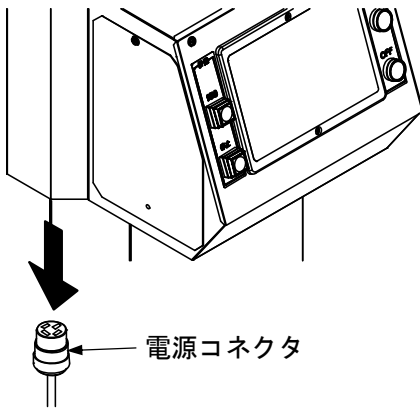
！ 警 告

運転中は可動部に触れない ● 運転中は、機械の可動部に触れないでください。



運転中は点検をしない ● 運転中は、特に指示する箇所以外は機械の点検および調整を行わないでください。

**掃除・点検・停電時は
電源コネクタを抜く**



- 各部の掃除、点検や異常・故障時の処置をする場合は、運転を停止し、電源コネクタを抜いて、機械が完全に停止している状態で行ってください。
- 運転中に停電した場合は、電源コネクタを抜いてください。

無理な作業はしない ● 疲労を感じたら無理に作業を続けず、休憩をしてください。

使用上の注意事項

使用地域	● 製品に表示された地域以外では使用しないでください。計量誤差の原因となります。 (54ページ参照)
据付場所	● 機械の据付場所は、水平でしっかりとした明るく広い場所にしてください。水平でないと機械の振動発生の原因になります。 ● 機械周辺の作業通路を確保してください。 壁から 50 cm 以上離して据え付けてください。
雷が鳴ったら電源コネクタを抜く	● 落雷のおそれがあるときは、機械保護のため運転を中止し、電源コネクタを抜いてください。
タコ足配線をしない	● コードリールの使用やタコ足配線はしないでください。電圧降下による計量誤差の原因となります。
水を掛けない	● 機械には水を掛けないでください。 水が掛かると電気回路がショートし、機械が故障または損傷するおそれがあります。
各操作部はていねいに操作する	● 操作部を乱暴に操作すると、誤動作および故障の原因になりますので、ていねいに操作してください。
機械の運転状態を監視する	● 運転中は、機械の運転状態を監視してください。 異常を感じた場合は、作業を中止し機械の点検を行ってください。
揮発性の高い薬品の使用禁止	● 本機周辺で揮発性の高い薬品を使用・保管しないでください。機械が故障するおそれがあります。
保管時のネズミ侵入対策	● 機械の保管場所は乾燥した平らな所を選び、機械内にネズミが侵入しないように注意してください。

標示ラベルについて

本製品には、特に注意を要する箇所に標示ラベルが貼り付けてあります。
これらの正確な位置および危険防止の内容をよく確認のうえ、理解してください。

1. 標示ラベルの貼付位置

標示ラベルの貼付位置と標示ラベルの内容については、図 1 および図 2 を参照してください。

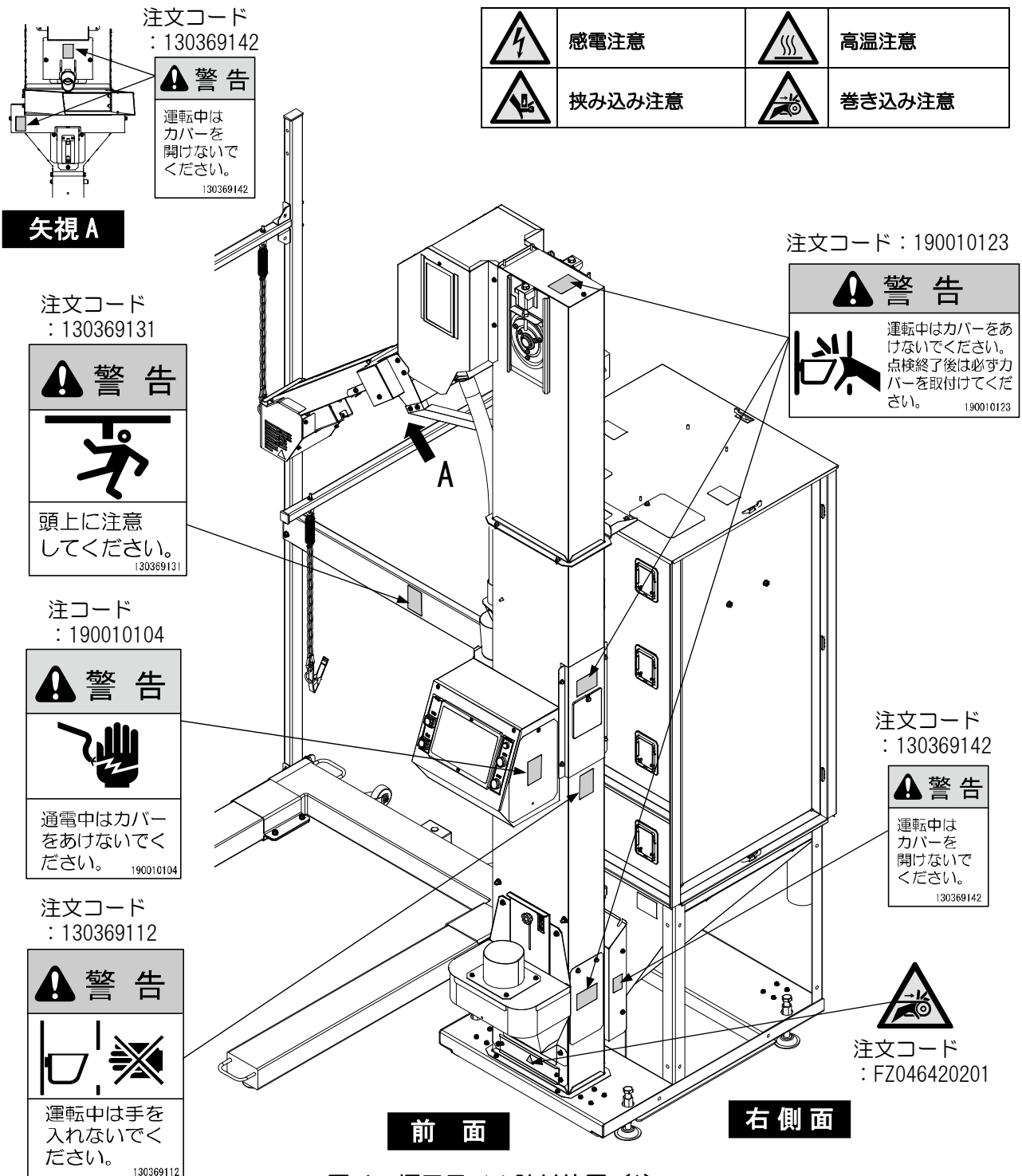


図 1 標示ラベル貼付位置 (1)

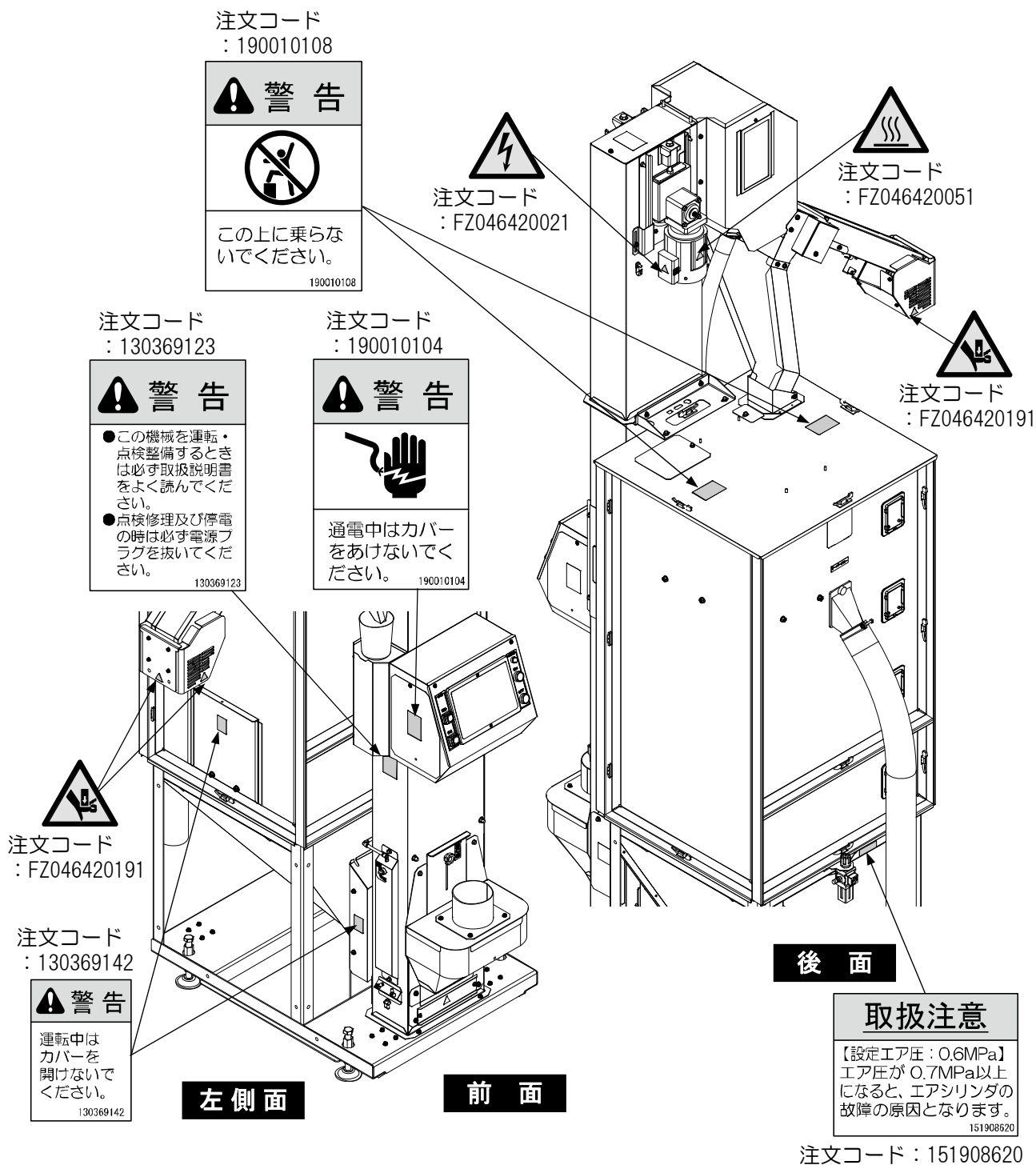


図 2 標示ラベル貼付位置 (2)

2. 標示ラベルの取扱い

- 標示ラベルがすべて読めるか確認してください。
汚れなどで文字やイラストが見えない場合、標示ラベルの汚れを落とすか交換してください。
- 標示ラベルの汚れ落としには布、水、洗剤を使用してください。
有機溶剤やガソリンなどを使用しないでください。
- 標示ラベルの損傷、紛失、読めない場合は、標示ラベルを購入して貼り替えてください。
問い合わせ先は、巻末の「緊急時の連絡先」を参照してください。

各部のなまえ

1. 機械の構成

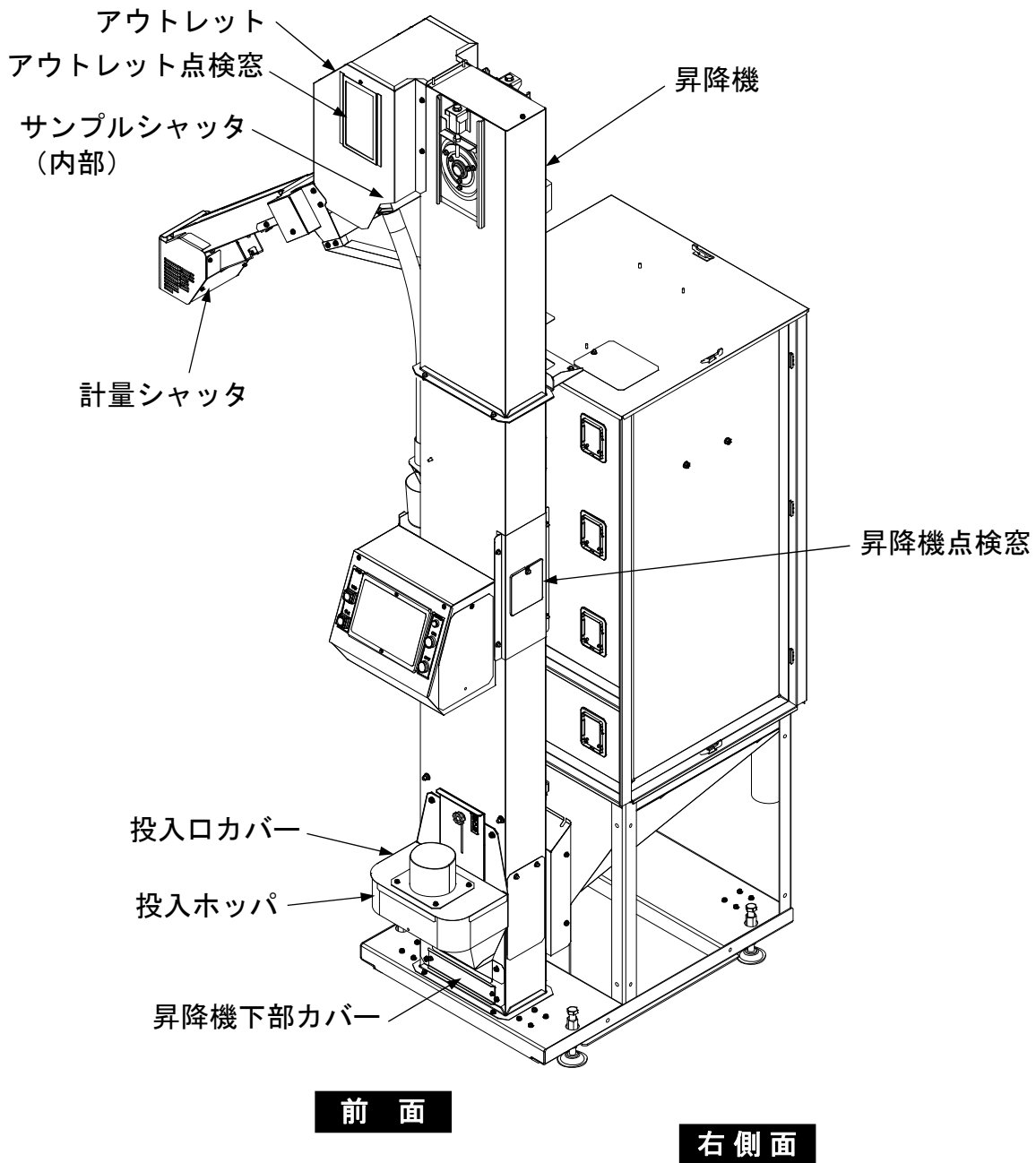


図 3 機械全体図（本体 1）

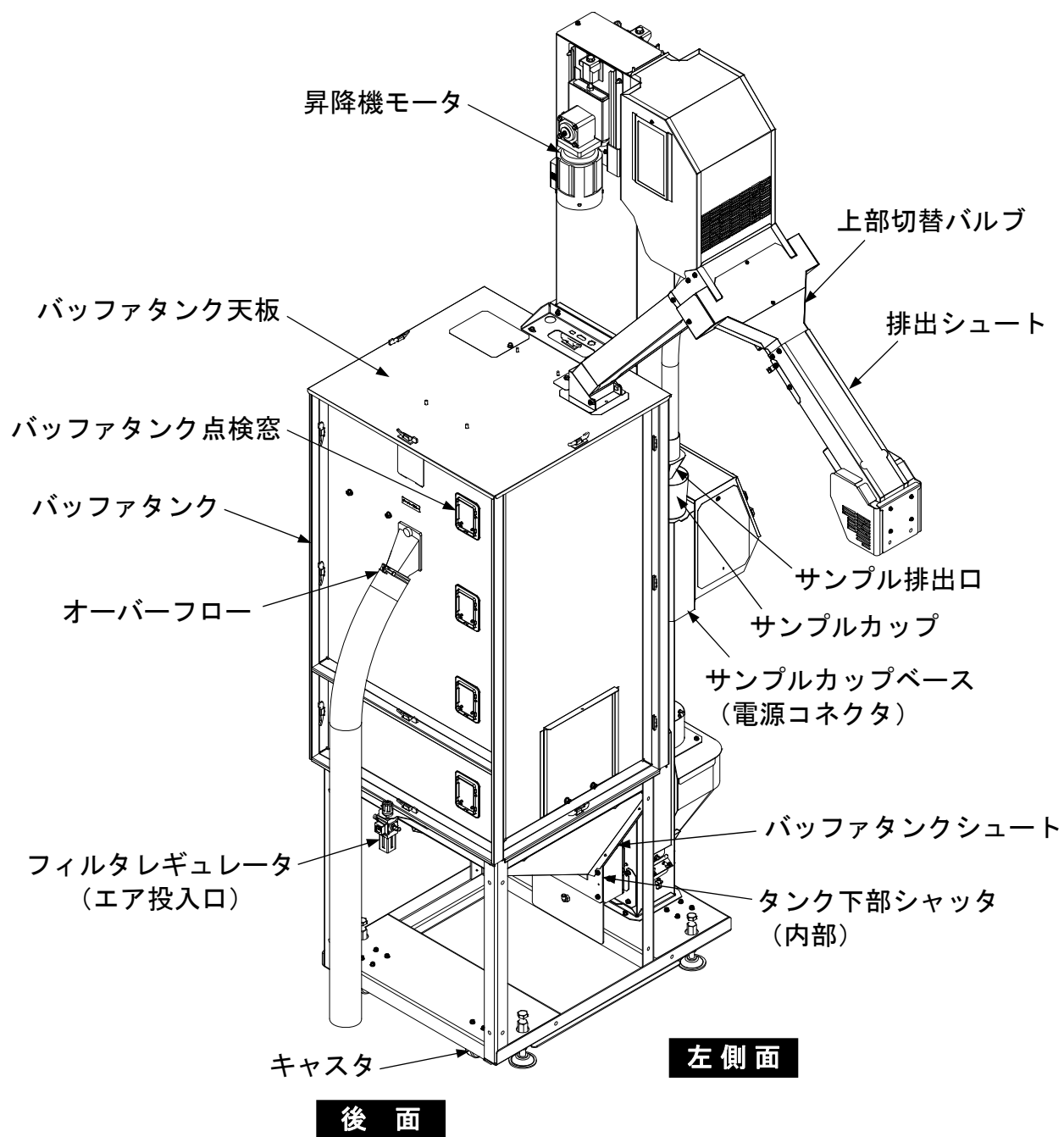


図 4 機械全体図 (本体 2)

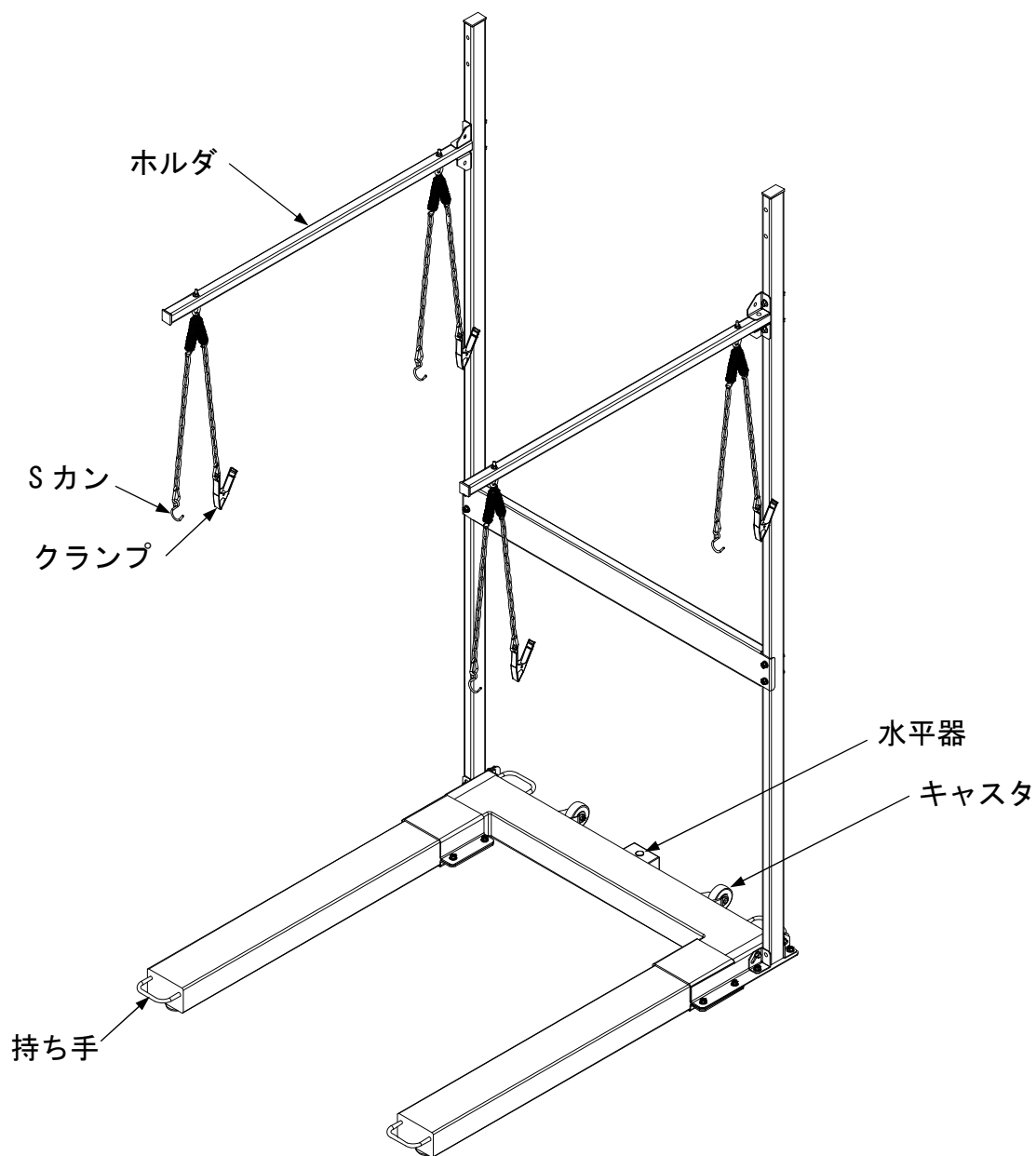


図 5 機械全体図（計量器）

表示箇所・操作箇所

1. 操作箇所のなまえ



● 本書をよく読み、理解するまでは機械を作動させないでください。

- 操作については、17～33ページを参照してください。

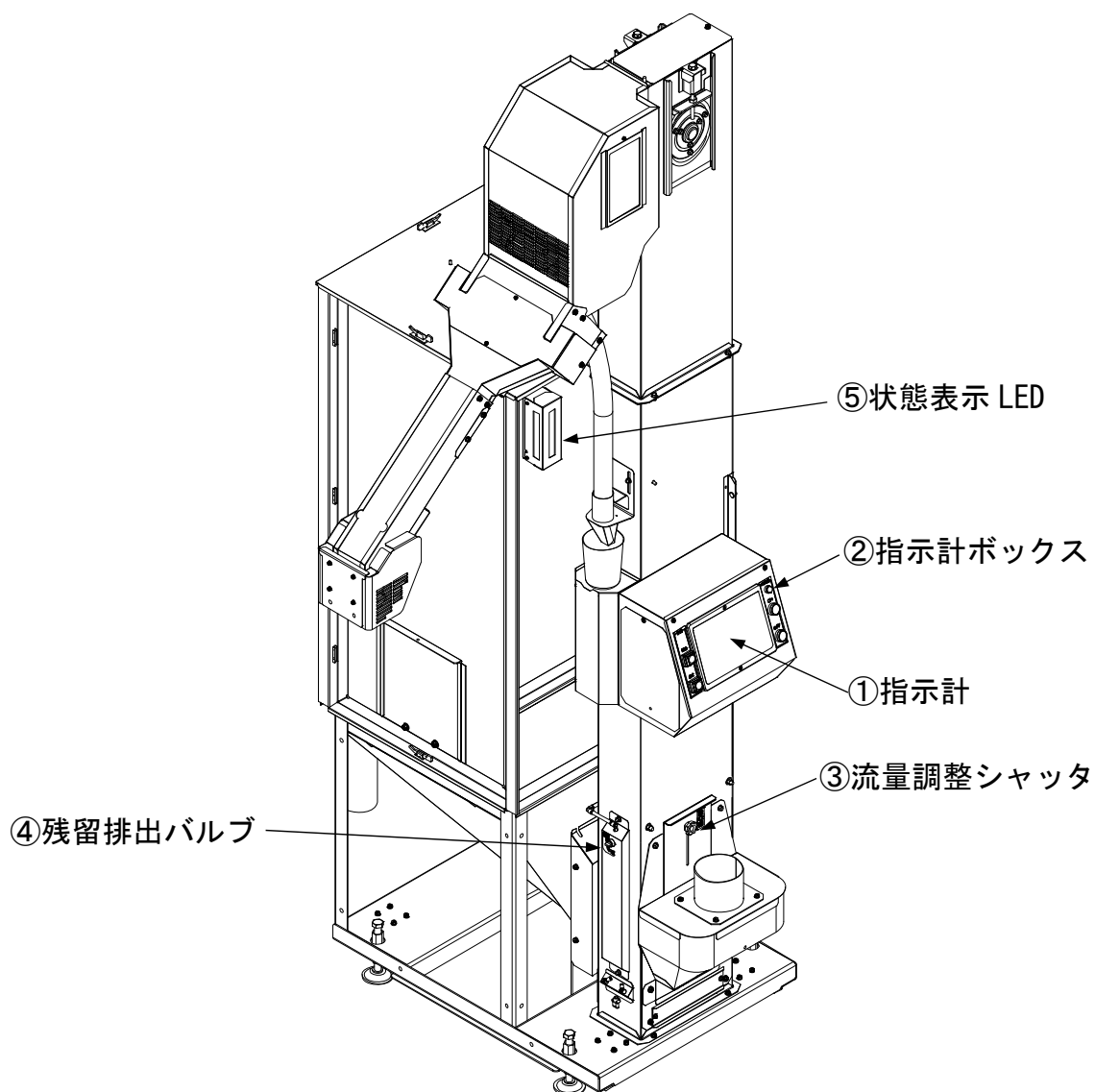
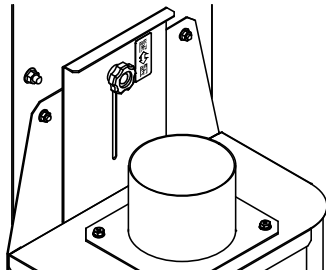
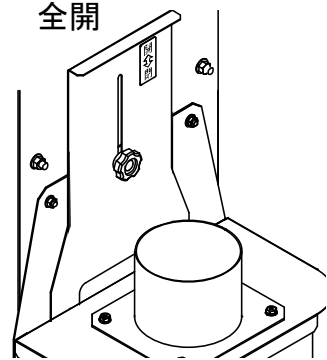


図 6 表示部・操作部

表 1 表示箇所・操作箇所の名称と機能一覧表

番号	名 称	機 能																																
①	指示計	計量値の表示や設定値の変更を行います。(11ページ参照)																																
②	指示計 ボックス	本機の操作を行います。(12ページ参照)																																
③	流量調整 シャッタ	シャッタを上引き上げると流量が増え、下げると流量が減ります。 基本的にはシャッタは全開（一番上げた状態）で使用してください。 全閉  全開 																																
④	残留排出 バルブ	残留排出運転を行うときに操作します。(36ページ参照)																																
⑤	状態表示 LED	機械の運転状態に応じた配色で点灯または点滅します。 <table><tr><th>色</th><th>点灯／点滅</th><th>内 容</th><th>機械の状態</th></tr><tr><td>青</td><td>点灯</td><td>計量 待機中</td><td>昇降機：運転中／計量：停止中</td></tr><tr><td rowspan="3">緑</td><td>点灯</td><td>計量中</td><td>昇降機：運転中／計量：計量中</td></tr><tr><td>点滅 (はやい)</td><td>サンプル 取得中</td><td>昇降機：運転中／計量：計量中 サンプルシャッタが動作</td></tr><tr><td>点滅 (ゆっくり)</td><td>計量完了</td><td>昇降機：運転中／計量：計量完了</td></tr><tr><td rowspan="3">黄</td><td>点滅</td><td>昇降機 停止中</td><td>昇降機：停止中／計量：計量中</td></tr><tr><td>点滅</td><td>昇降機 過負荷</td><td>昇降機：過負荷停止(サーマルトリップ) 計量：計量中</td></tr><tr><td>点滅</td><td>満量 センサ 動作</td><td>表示のみ (昇降機、計量は停止しません)</td></tr><tr><td>赤</td><td>点滅</td><td>計量器、 指示計 関連の エラー</td><td>計量器、指示計の内部異常発生 (計量：停止)</td></tr></table> ※状態表示 LED はお好みの場所に設置することができます。	色	点灯／点滅	内 容	機械の状態	青	点灯	計量 待機中	昇降機：運転中／計量：停止中	緑	点灯	計量中	昇降機：運転中／計量：計量中	点滅 (はやい)	サンプル 取得中	昇降機：運転中／計量：計量中 サンプルシャッタが動作	点滅 (ゆっくり)	計量完了	昇降機：運転中／計量：計量完了	黄	点滅	昇降機 停止中	昇降機：停止中／計量：計量中	点滅	昇降機 過負荷	昇降機：過負荷停止(サーマルトリップ) 計量：計量中	点滅	満量 センサ 動作	表示のみ (昇降機、計量は停止しません)	赤	点滅	計量器、 指示計 関連の エラー	計量器、指示計の内部異常発生 (計量：停止)
色	点灯／点滅	内 容	機械の状態																															
青	点灯	計量 待機中	昇降機：運転中／計量：停止中																															
緑	点灯	計量中	昇降機：運転中／計量：計量中																															
	点滅 (はやい)	サンプル 取得中	昇降機：運転中／計量：計量中 サンプルシャッタが動作																															
	点滅 (ゆっくり)	計量完了	昇降機：運転中／計量：計量完了																															
黄	点滅	昇降機 停止中	昇降機：停止中／計量：計量中																															
	点滅	昇降機 過負荷	昇降機：過負荷停止(サーマルトリップ) 計量：計量中																															
	点滅	満量 センサ 動作	表示のみ (昇降機、計量は停止しません)																															
赤	点滅	計量器、 指示計 関連の エラー	計量器、指示計の内部異常発生 (計量：停止)																															

2. 指示計表示部の説明

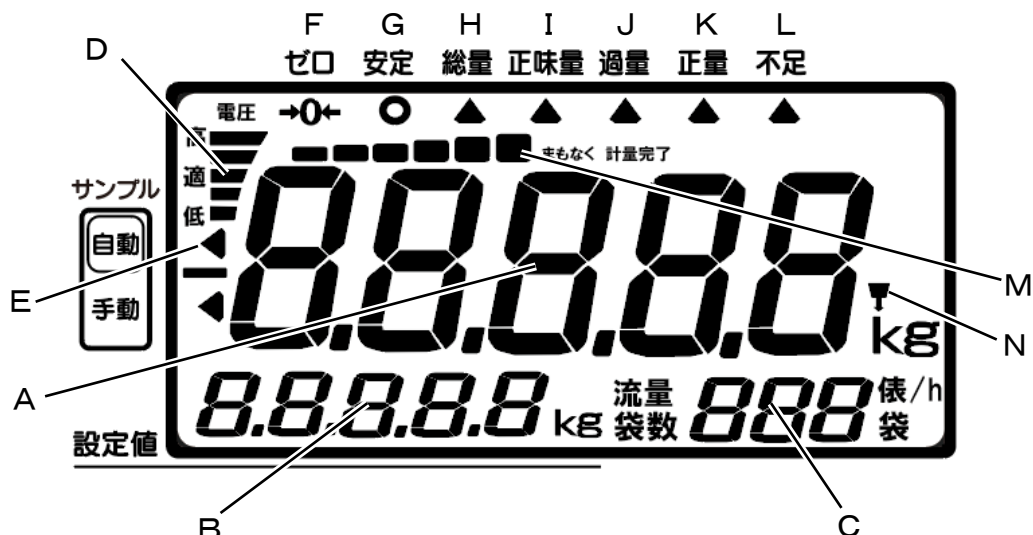


表 2 指示計表示部の説明

番号	名 称	説 明
A	計量値	現在の計量値 (kg) を表示します。 0.5 kg 間隔で計量値を表示します。
B	自動計量設定値	現在設定している自動計量の設定値を表示します。 自動計量設定値は電源コネクタを抜いても記憶しています。
C	流量・袋数	現在の流量と計量が完了した袋数が 5 秒ごとに交互に表示されます。
D	電圧	電源電圧の状態を表示します。
E	自動サンプル	自動サンプルの設定状態を表示します。
F	ゼロ状態	計量器がゼロ状態のとき [→0←] を表示します。
G	安定状態	計量器が安定状態のとき [○] を表示します。
H	総量	計量値が総量のとき (風袋引きをしていないとき) [▲] を表示します。
I	正味量	計量値が正味量のとき (風袋引きをしているとき) [▲] を表示します。
J	過量	計量完了時、計量値が計量設定値を超えていると [▲(赤)] を表示します。
K	正量	計量完了時、計量値が計量設定値どおりのとき [▲] を表示します。
L	不足	計量完了時、計量値が計量設定値より少ないとき [▲(赤)] を表示します。
M	計量インジケータ	計量設定値に対する現在の計量の進捗をインジケータ (6 分割) で表示します。
N	計量中マーク	計量中は [▼] を表示します。

3. 指示計ボックスの操作部(各ボタン)の説明

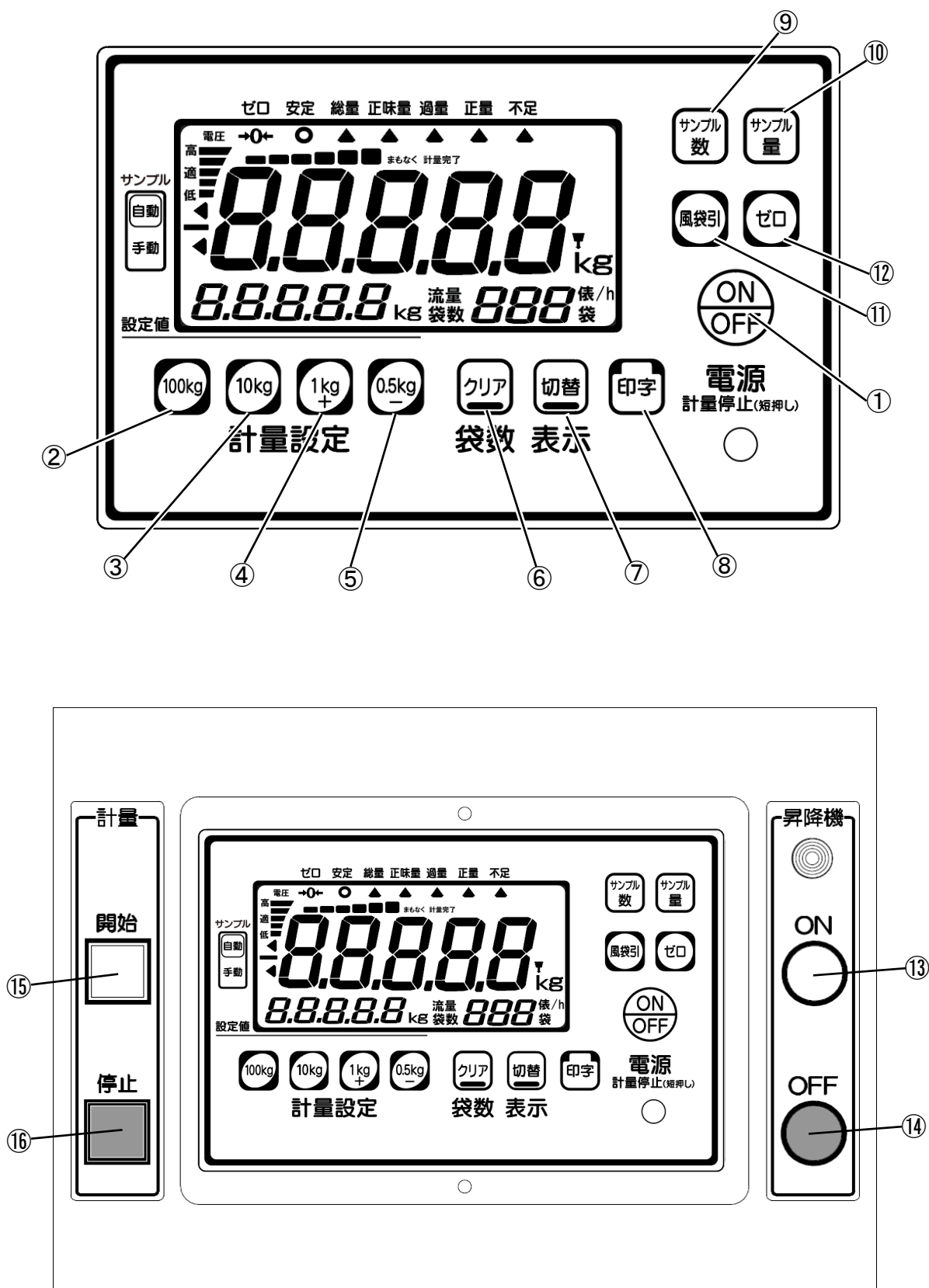
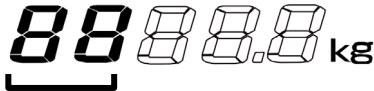
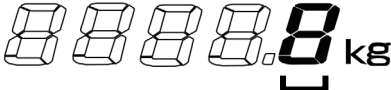
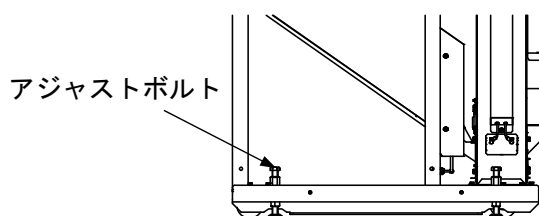
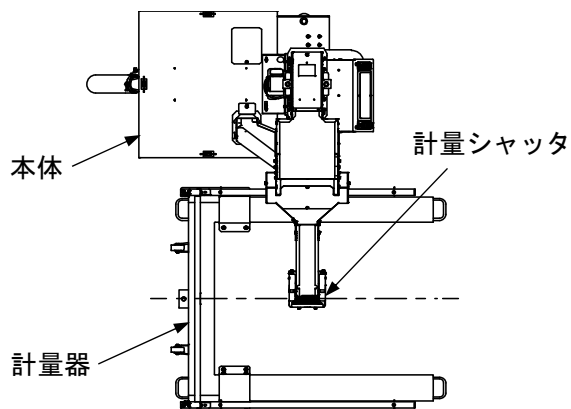
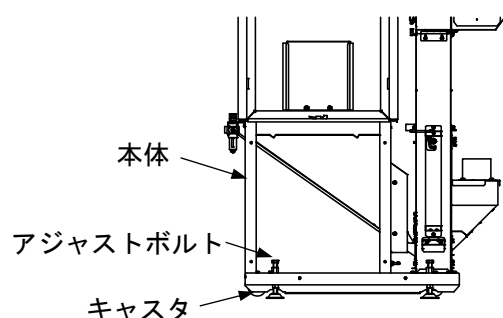
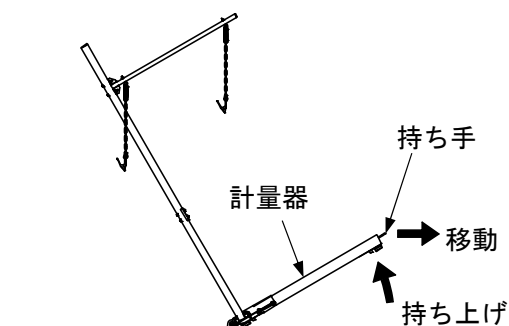


表 3 指示計ボックスの操作部（各ボタン）の説明

番号	名 称	機 能
①	電源ボタン	短押し：電源 [ON] 長押し：電源 [OFF] 電源[ON]の状態、短押しすると計量を強制的に中断します。 （計量シャッタが閉じます） ※電源 [ON] 時、150 kg までの重量物が計量器の上に載っていても計量値が 0 kg となります。
②	計量設定ボタン [100 kg]	自動計量設定値を 100 kg 単位で変更する際に使用します。 1 回押すごとに 0→1→…→14→15→0 と変化します。 
③	計量設定ボタン [10 kg]	自動計量設定値を 10 kg 単位で変更する際に使用します。 1 回押すごとに 0→1→…→8→9→0 と変化します。 
④	計量設定ボタン [1 kg]	自動計量設定値を 1 kg 単位で変更する際に使用します。 1 回押すごとに 0→1→…→8→9→0 と変化します。 
⑤	計量設定ボタン [0.5 kg]	自動計量設定値を 0.5 kg 単位で変更する際に使用します。 1 回押すごとに 0→5→0 と変化します。 
⑥	袋数クリアボタン	累積の袋数を 0 袋にリセットする際に使用します。 長押しすると累計の袋数をリセットします。 袋数  袋 → 袋数  袋
⑦	表示切替ボタン	袋数と流量の表示を切り替える際に使用します。 ボタン押す度に切り替わります。 袋数  袋 ⇄ 流量  俵/h ※ 袋数と流量は 5 秒ごとに交互に表示されます。
⑧	プリンタ手動印字 ボタン	オプションプリンタを接続している際に使用します。 手動で現在表示されている計量値のデータを印字します。 ※ 安定状態の場合のみ動作します。非安定状態では印刷されません。

番号	名 称	機 能
⑨	サンプル数設定ボタン	計量中に取得するサンプル数を設定する際に使用します。 短押し：自動サンプルの回数を変更することができます。 [設定可能範囲値：0～10 回] (初期値：0 回) 長押し：サンプルの取得方法を変更することができます。 [自動]：1 回の計量につき、設定した回数のサンプルを自動で取得します。 [手動]：手動でのみサンプルを取得します。 (初期値：自動)
⑩	サンプル量設定ボタン	短押し：サンプルが [自動] のときサンプルシャッタの開く時間を変更できます。 [設定可能範囲：0～10 秒] (初期値：2 秒) 長押し：長押ししている間、手動でサンプルシャッタを開くことができます。(手動サンプル取得) (サンプル取得方法が [自動] / [手動] 問わず、動作します)
⑪	風袋引ボタン	正味量で計量する際に使用します。 セットした風袋 (フレキシブルコンテナバッグ) の重量を引きます。表示が正味量に切り替わります。 ※ 風袋引可能範囲：風袋重量を含めて最大ひょう量まで
⑫	ゼロ点調整ボタン	計量値の表示をゼロ (0) に合わせる際に使用します。 袋 (フレキシブルコンテナバッグ) をセットしていない状態で使用してください。 パレットとホルダはセットしたまま使用してください。 ※ ゼロ点調整可能範囲：-30 kg～30 kg まで
⑬	昇降機 ON (運転) ボタン	昇降機を起動させる際に使用します。 指示計の電源 ON/OFF 問わず、昇降機は起動します。
⑭	昇降機 OFF (停止) ボタン	昇降機を停止させる際に使用します。
⑮	計量開始ボタン	計量を開始する際に使用します。 計量シャッタが開きます。
⑯	計量停止ボタン	計量を中断/終了する場合に使用します。 計量シャッタが閉じます。

機械の据付



1) 本体と計量器を据え付け場所まで移動します。

- 計量器は持ち手を持ち上げて移動します。

- 本体はキャスタで移動させることができます。

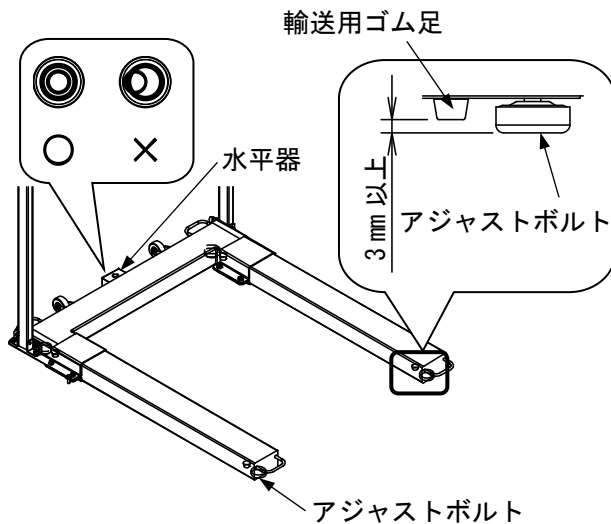
- アジャストボルトを上げて、キャスタを地面に付けてから移動します。

- 本体の計量シャッタ（排出口）が計量器の中心になるように位置を調整します。

- 計量器の向きは、ご使用の環境に合わせて調整してください。

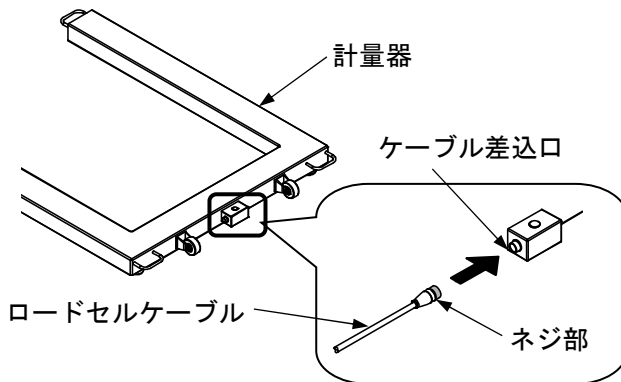
2) 本体がガタついている場合は、アジャストボルトで調整します。

- 平らな固い地面に据え付けてください。



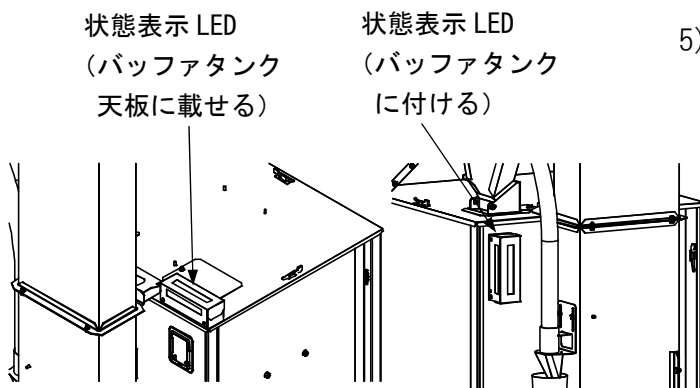
3) 計量器の水平を調整します。

- 水平器の気泡が中央になるよう水平調整アジャストボルトを回して調整してください。
- 計量器の輸送用ゴム足が地面から 3mm 以上隙間が空くようにアジャストボルトを回してください。
- 平らな固い地面に据え付けてください。



4) ロードセルケーブルを計量器へ差し込みます。

- 差し込み後、ネジ部を回してケーブルを固定します。



5) 状態表示 LED をお好みの見やすい位置に設置してください。

取扱注意

計量誤差が発生する原因となるので、以下の点に注意してください。

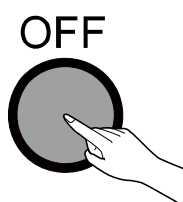
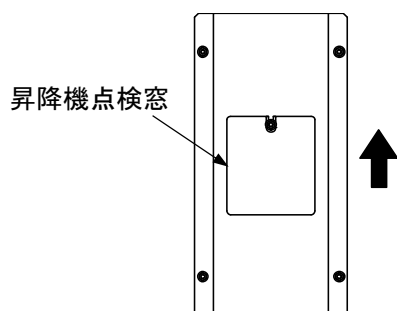
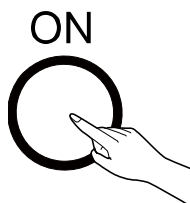
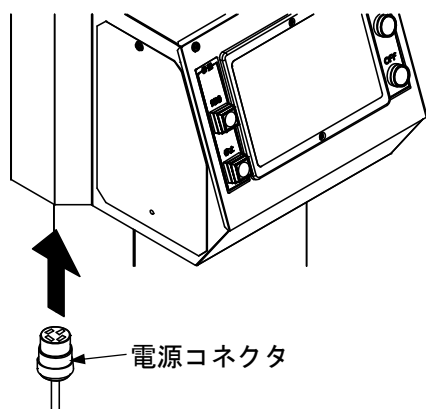
- 計量器と本体が接触しないようにしてください。
- ロードセルケーブルの余った部分と計量器が接触しないようにしてください。
- 計量器の輸送用ゴム足が地面に接触しないようにしてください。

運転前の確認

1. 昇降機モータの回転方向の確認



- 運転前にすべての安全カバーが装着されていることを確認してください。
- 電気配線をするときは、元電源のブレーカを切って、感電に十分注意してください。



1) 電源コネクタを接続します。

- 電源コネクタは、MC2644（明工社）相当品を使用してください。

2) モータの回転方向を確認します。

(a) [昇降機ONボタン] を押します。

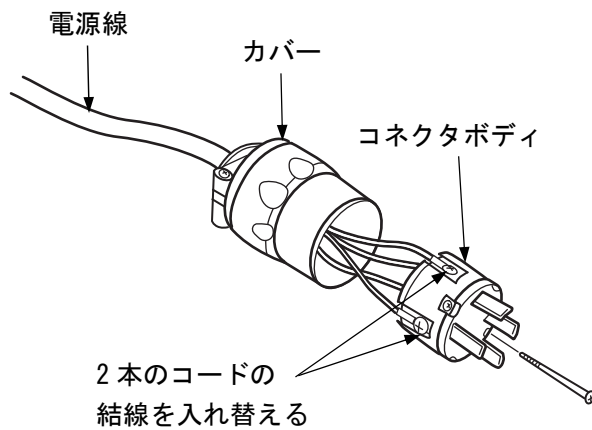
- 昇降機モータが回ります。
- 指示計の電源が OFF の状態でも昇降機は回ります。

(b) 昇降機のバケットベルトの回転方向が正しいことを確認します。

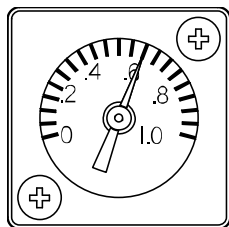
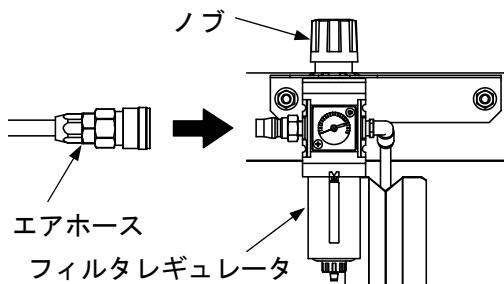
- 点検窓からバケットベルトが上方方向に回転していることを確認します。

(c) [昇降機OFFボタン] を押します

- 昇降機モータが停止します。



2. エアシリンダの動作確認



- 3) 回転方向が逆の場合は電源線側の結線の方向を変更します。
 - 電源線側のコネクタボディ内部の結線で、アース線（緑色のコード）以外の赤、白、黒のコードのうち、いずれか2本を入れ替えます。
 - 本体側で配線の変更を行うことはできません。配線を変更する場合は必ず電源線側で行ってください。

- 1) フィルタレギュレータにエアホースを接続します。
 - エアホースのカプラソケットは、KK130S（SMC）相当品を使用してください。
- 2) レギュレータのエア圧が 0.6 MPa になっていることを確認します。
 - 0.6 MPa になっていない場合、レギュレータのノブを回してエア圧を調整してください。

取扱注意

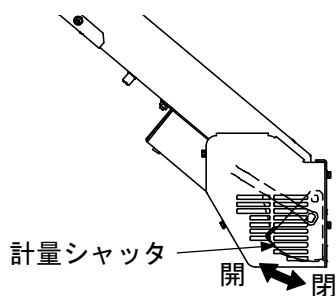
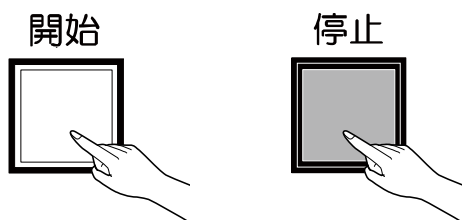
- エア圧を調整するときは1度エア圧を下げて、上げながらエア圧を調整してください。
- エア圧は 0.7 MPa 以上に設定しないでください。エア機器が破損します。



- 3) 指示計の「電源ボタン」を押し、電源を ON にします。
 - 指示計の表示部が点灯します。

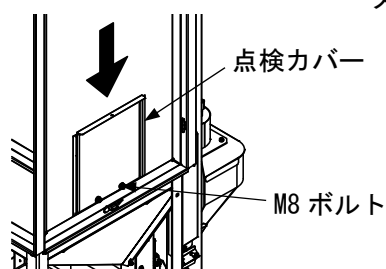
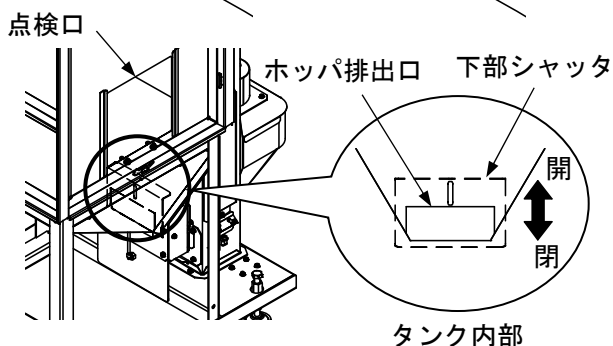
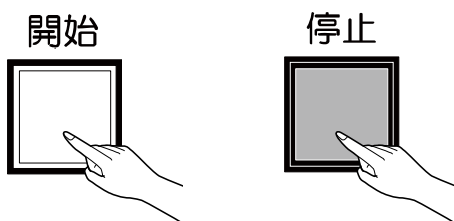
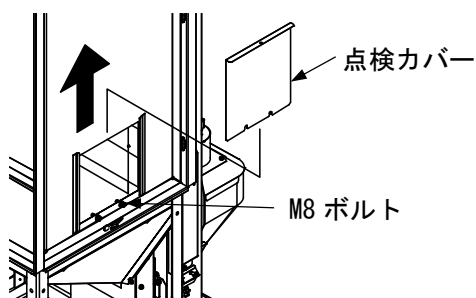
- 4) 各エアシリンダが正しく動作していることを確認します。

計量シャッタ



! 注意

- 計量シャッタの動作を確認する際は、計量シャッタに触れないでください。
- 計量シャッタで指を挟まないように注意してください。



タンク下部シャッタ

- (b) タンク側面の点検カバーを取り外します。

- M8 ボルト (2 本) を緩めます。

- (c) [計量開始ボタン] を押し、点検口から下部シャッタが開くことを確認します。

- [計量停止ボタン] を押すと、下部シャッタが閉じ(下がり)ます。

- (d) 外したタンク側面の点検カバーを取り付けます。

- M8 ボルト (2 本) を締め付けます。

サンプルシャッタ

(e) [サンプル量設定ボタン]を長押しして、サンプルシャッタが正常に動作することを確認します。

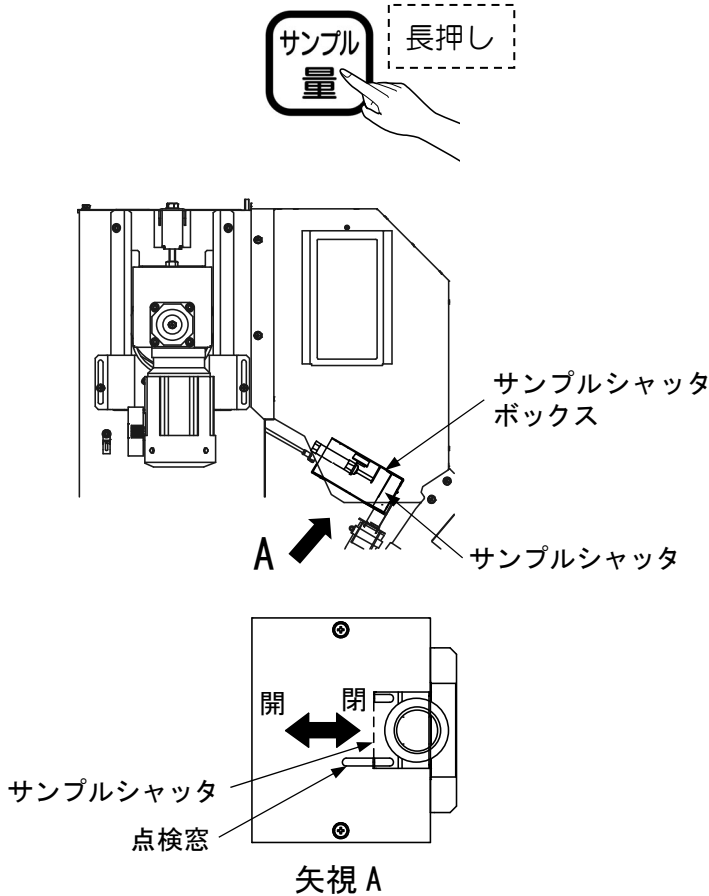
- サンプルシャッタの動作状況はサンプルシャッタ点検窓から確認することができます。

- [サンプル量設定ボタン]を長押ししている間、サンプルシャッタが上方向に、離すと下方向に動作します。

- [サンプル量設定ボタン]を長押しではなく、短押ししてしまった場合、左記画面になります。

- 3 秒間放置すれば元の表示に戻ります。

5) 各シャッタが正常に動作していない場合、エア配管図を参考にエア配管の点検を行ってください。(47ページ参照)

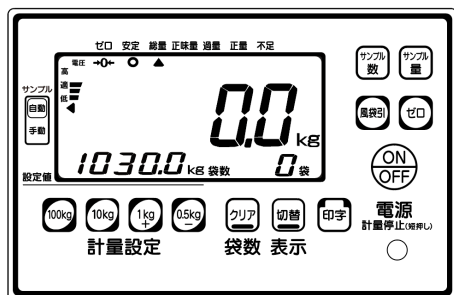


計量の設定

1. 自動計量設定値の設定方法

自動計量する重量の設定を行います。【総量（皆掛重量）】で計量するか、【正味量】で計量するかによって、自動計量設定値の設定方法が異なります。

(1) 自動計量を【総量（皆掛重量）】で行う場合



- 1) 計量設定値は、計量器に載る「総量（皆掛重量）」を設定します。

総量（皆掛重量）（※1）

= フレキシブルコンテナバッグの重量
+ 計量対象物（※2）の正味重量

※1 パレットの重量は含みません

※2 計量対象物：玄米または麦類

- 指示計の「総量」下に「▲」が表示されていることを確認します。
- 「総量」下に「▲」が表示されていない場合、[ゼロ点調整ボタン] を短押ししてください。
- [100 kg] [10 kg] [1 kg] [0.5 kg] のボタンを押すと対応した計量設定値の数字が変化します。

(2) 自動計量を【正味量（風袋引をした状態）】で行う場合（参考）



1) フレキシブルコンテナバッグをセットします。

（26ページ「3. フレキシブルコンテナバッグのセット方法」参照）

2) [風袋引ボタン] を押します。

- 計量値が「0.0 kg」になります。
- 指示計の「正味量」下に「▲」が表示されていることを確認します。

3) 計量設定値は、「正味量（フレキシブルコンテナバッグ内の計量対象物の重量）」を設定します。

- [100 kg] [10 kg] [1 kg] [0.5 kg] のボタンを押すと対応した計量設定値の数字が変化します。

取扱注意

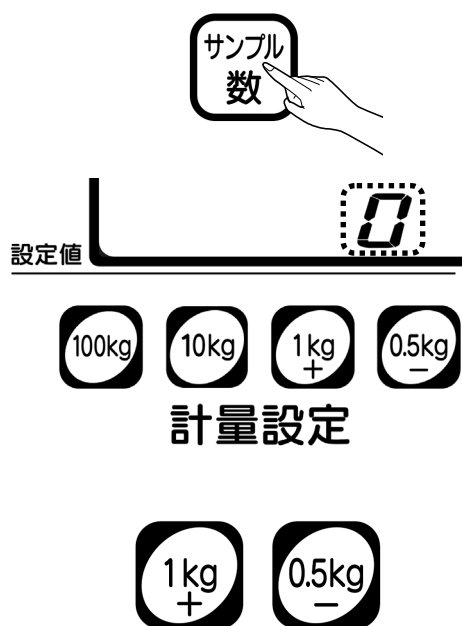
- 自動計量の設定可能範囲は、10～1,500 kg です。自動計量範囲以外
の設定では設定値になっても自動的に計量シャッターが閉じません。

補 足

- 穀物は外気温度や湿度により水分量が変わり、計量後の重量がわずかに変動することがあります。自動計量設定値は少し多めに設定することをおすすめします。

2. 自動サンプルの設定方法

1 回の計量中に自動で取得する、サンプル回数とサンプル量（サンプルシャッタの開時間）を設定することができます。



1) 自動サンプルの回数を設定します。

(a) [サンプル数設定ボタン] を短押しします。

- 現在の自動サンプル回数が自動計量設定値の箇所に表示されます。

【初期値：0 回※】

※ 自動サンプル回数が「0 回」の場合、自動サンプルは動作しません。

(b) 計量設定ボタン [1 kg (+)] ボタンまたは [0.5 kg (-)] を押してサンプル回数を変更します。

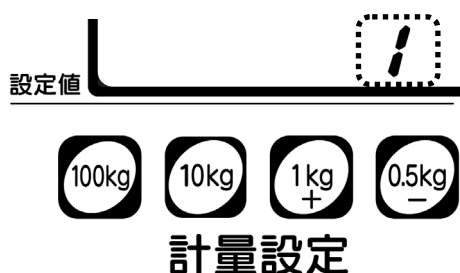
- 設定可能範囲：0～10（回）
- サンプル取得タイミングは下表 4参照

表 4 計量設定値に対してのサンプル取得タイミング

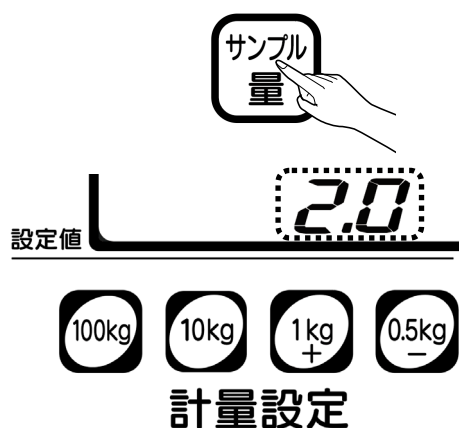
サンプル回数 動作回数	0回 【初期 値】	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
1回目		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
2回目			90	50	37	30	26	23	21	20	19
3回目				90	63	50	42	37	33	30	28
4回目					90	70	58	50	44	40	37
5回目						90	74	63	56	50	46
6回目							90	77	67	60	54
7回目								90	79	70	63
8回目									90	80	72
9回目										90	81
10回目											90

(%)

(c) サンプル数の設定を確定します。



- 3 秒間、指示計のいずれのボタンも押さないでください。設定が確定します。
- サンプル回数の数字が点滅している間に電源を OFF にしないでください。設定が確定しません。
- 設定が確定すると、表示が自動計量設定値に戻ります。



2) 自動サンプルの際に取得するサンプル量
(サンプルシャッタ開時間) を設定します。

(a) [サンプル量設定ボタン] を短押しします。

- 現在の自動サンプル量の設定が表示されます。

【初期値：2.0 秒】

(b) 計量設定ボタン [1 kg (+)] ボタンまたは [0.5 kg (-)] を押してサンプル量を変更します。

(c) 設定可能範囲：0.0～10.0 (秒)

(d) 数値を上げるほどサンプルシャッタの開く時間が長くなり、1回あたりのサンプル量が増加します。

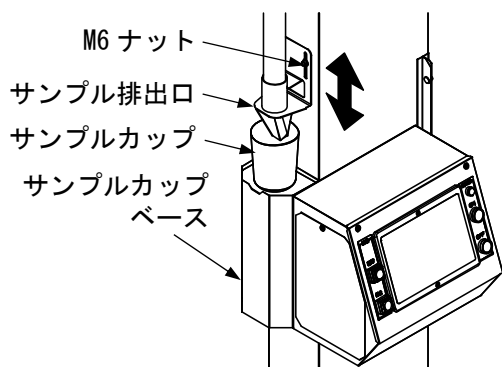
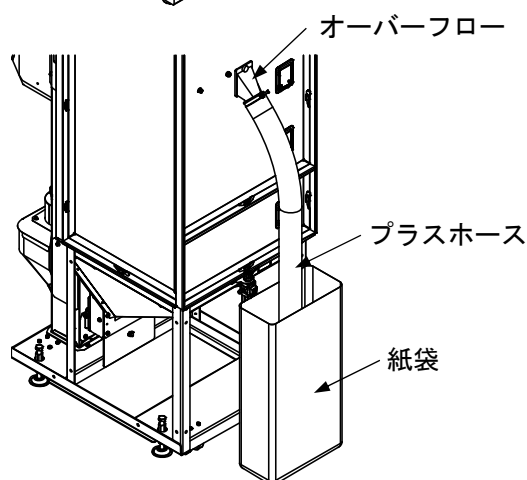
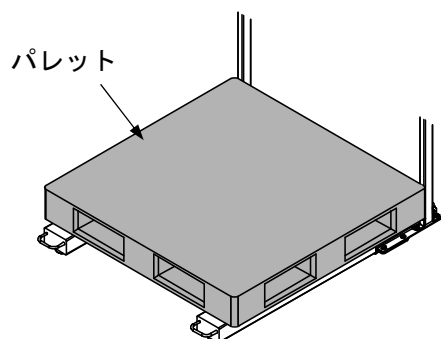
(e) サンプル量の設定を確定します。

- 3 秒間、指示計のいずれのボタンも押さないでください。設定が確定します。
- 数字が点滅している間に電源を OFF にしないでください。設定が確定しません。
- 設定が確定すると、表示が自動計量設定値に戻ります。

(f) 設定が完了したら電源をOFFにします。

運転操作（計量のしかた）

1. 電源 ON 前の準備



1) 計量器にパレットを設置します。

- 幅 1,100×奥行 1,100 mm（標準パレットサイズ）のパレットを使用してください。
- 質量 19 kg 以上のパレットを使用してください。
- フレキシブルコンテナバッグは設置しないでください。

2) オーバーフロー出口に紙袋等を設置します。

- オーバーフロー出口のプラスホースを紙袋の中に向けます。

3) サンプルカップベースの上に付属のサンプルカップを設置します。

- M6 ナット（2 個）を緩めてサンプル排出口の高さを調整してください。
- 調整が終わったら、M6 ナット（2 個）を締め付けます。

2. 計量開始前の準備



1) 指示計の〔電源ボタン〕を押し、電源 ON にします。

- 電源 OFF 状態で〔電源ボタン〕を短押しすると、電源が「入」になります。
- 電源 ON 状態で〔電源ボタン〕長押しすると、電源が「切」になります。
- 電源 ON 状態になると指示計の表示部が点灯します。

取扱注意

- 電源 ON にするとき、計量器の上にはホルダとパレット以外は載せないでください。
- 電源 ON にするとき、フレキシブルコンテナバッグは設置しないでください。



2) 「袋数クリアボタン」を長押しして、累積の袋数をリセットします。

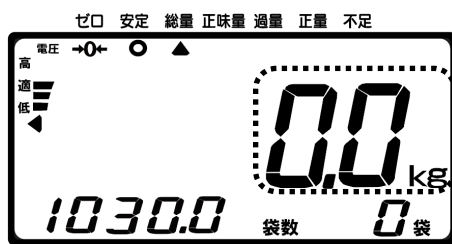
- 累計の袋数をリセットせずに使用する場合は「袋数クリアボタン」は押す必要はありません。



3) 計量設定値を確認します。

- 計量設定値を変更する場合は、21ページ「1. 自動計量設定値の設定方法」を参照してください。

3. フレキシブルコンテナバッグのセット方法

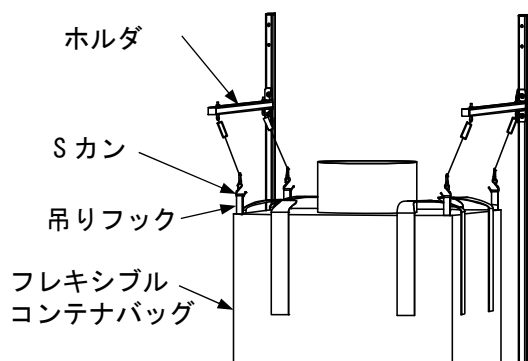


1) 計量器にパレットだけを載せた状態で、指示計の計量値が「0.0 kg」が表示されていることを確認します。

- 「0.0 kg」が表示されていない場合は、「ゼロ点調整ボタン」を押して、計量値が「0.0 kg」になっていることを確認します。

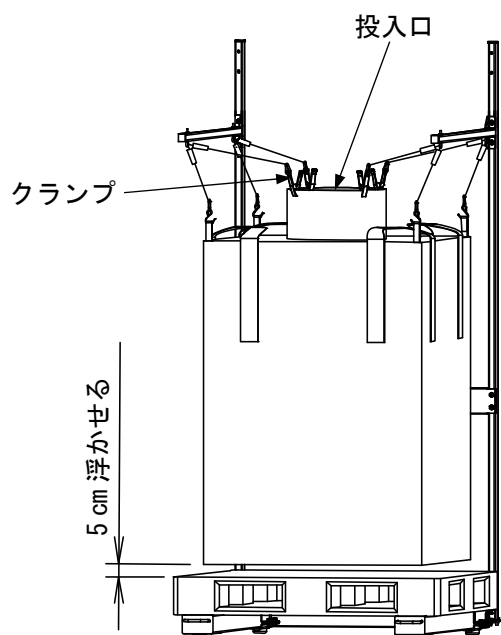
取扱注意

- フレキシブルコンテナバッグをセットする前に、計量値が「0.0 kg」になっていることを必ず確認してください。



2) フレキシブルコンテナバッグをホルダにセットします。

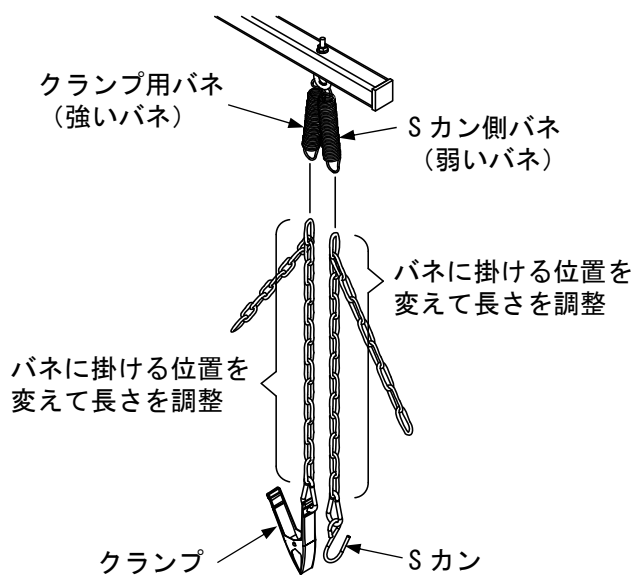
(a) フレキシブルコンテナバッグの吊りフック（4カ所）にそれぞれSカンを引っ掛けます。



(b) フレキシブルコンテナバッグの内袋の投入口（4カ所）をクランプで挟みます。

3) フレキシブルコンテナバッグの底部中央が、パレットから 5 cm 浮く程度に高さを調整します。

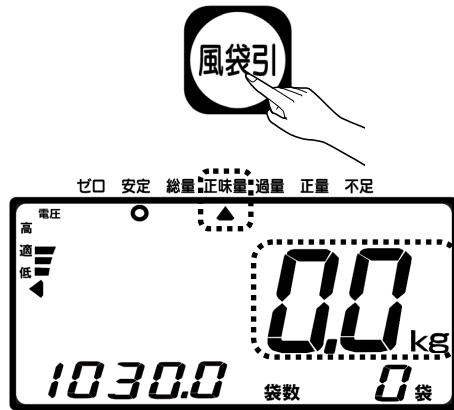
(a) Sカンが付いたチェーンでフレキシブルコンテナバッグを浮かせます。



(b) クランプが付いたチェーンをたるみのないように長さを調整します。

取扱注意

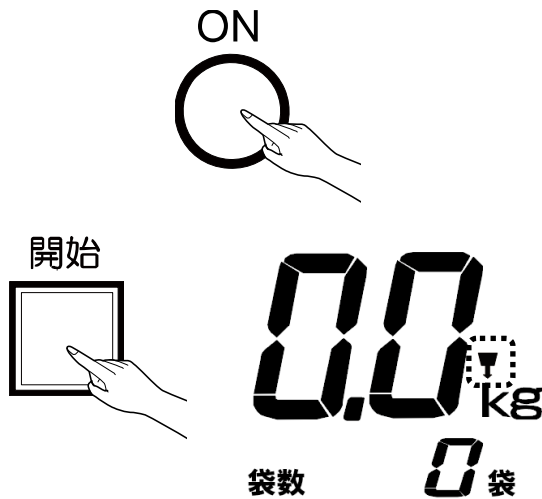
- 底部中央が 10 cm 以上浮かないようにしてください。バネが伸びて破損するおそれがあります。



4) 正味量で計量する場合、フレキシブルコンテナバッグセット完了後、[風袋引きボタン] を押してください。

- 計量値が「0.0 kg」になります。
- 指示計の正味量の下に「▲」が表示されます。
- 総量で計量する場合は、[風袋引きボタン] は押さないでください。

4. 計量作業のしかた

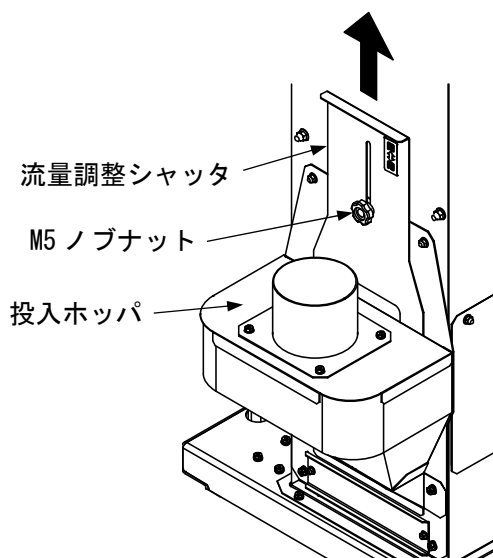


1) [昇降機 ON ボタン] を押します。

- 昇降機モータが回ります。

2) [計量開始ボタン] を押します。

- 計量シャッタが開きます。
- 指示計に [▼] が表示されます。

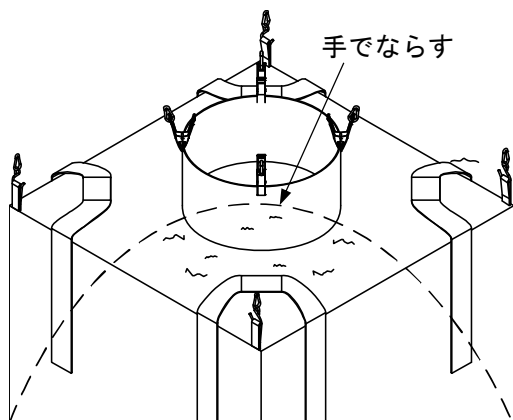


3) [流量調整シャッタ] を全開にします。

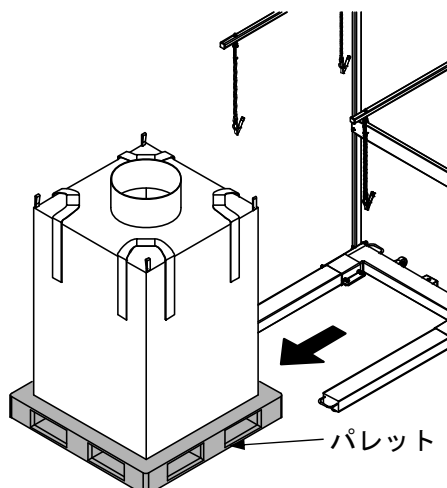
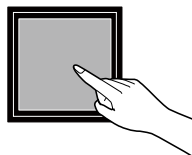
- M5 ノブナットを緩めます。
- 全開にしたら、5 ノブナットを締め付けます。

4) 投入ホッパに原料を張り込めます。

■■■■■ まもなく 計量完了



停止



5) 自動計量が開始されます。

- 計量中、進捗状態に応じて計量インジケータが増加します。
- 自動サンプルを設定している場合、規定量になると自動でサンプルが排出されます。
- 「計量設定値-20kg」になると、「まもなく計量完了」が表示されます。

6) 計量中、必要に応じてフレキシブルコンテナバッグ内の穀物を手ならしします。

- フレキシブルコンテナバッグの種類によっては計量の終盤に手ならしが必要になります。
- 計量中の状態（指示計に[▼]が表示されている状態）で計量器に乗らないでください。
- 手ならしを行うために計量器の上に乗る際は、必ず[計量停止ボタン]を押して、計量を一時中断してから行ってください。

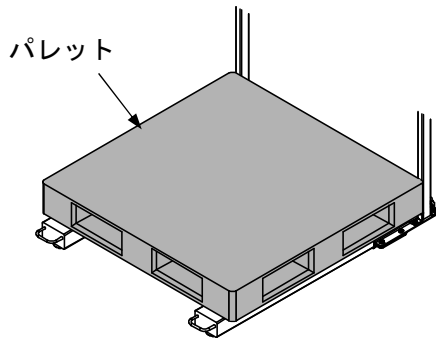
7) 計量完了後、フレキシブルコンテナバッグをパレットごと搬出します。

- 計量が完了すると「計量完了」が表示され、ブザー音が鳴ります。



警告

- フレキシブルコンテナバッグをフォークリフトで吊り上げて搬出しないでください。設置したパレットをフォークリフトですくってから搬出してください。



袋数 **100** 袋

- 計量が完了すると、次に計量を再開するまで、原料はバッファタンクに溜まります。
- バッファタンクは、約 400 kg 溜まると原料がオーバーフローし始めます。
- バッファタンク内に溜まった原料は、次の計量を開始すると排出されます。

8) 続けて計量を行う際は、再度パレットを計量器の上に設置します。

9) パレットを設置後、[ゼロ点調整ボタン] を押します。

10) 新しいフレキシブルコンテナバッグを設置します。

- 正味量で計量する場合、[風袋引ボタン] を押します。

11) 指示計の[計量開始ボタン]を押します。

- 計量が開始されます。

12) 連続で計量する場合は 6) ～11) を繰り返します。

- 計量完了ごとに袋数がカウントされ今までの袋詰数が表示されます。

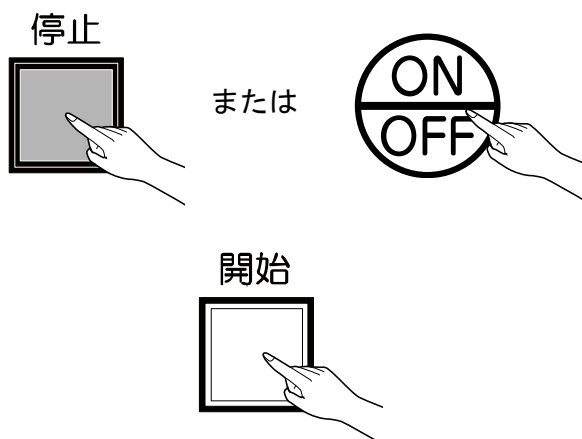


- 運転中は、カバー類を取り外したり、投入ホッパに指や棒などを入れたりしないでください。

取扱注意

- 指示計のボタンを押すときは、やさしく押してください。
- 計量器は精密機器です。重量物を落下させて、強い衝撃を与えたり、水を掛けたりしないでください。
- 最高処理能力以上で使用するとモータが過負荷になり、過負荷停止装置が働いて、モータが停止しますので注意してください。
- 最低処理能力未満で使用すると、計量誤差が発生する可能性があります。

5. 計量を一時中断する方法



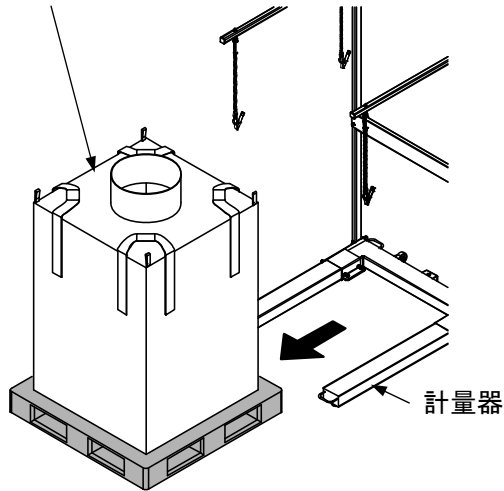
- 1) 計量を一時中断する場合は、[計量停止ボタン] または [電源ボタン] を短押ししてください。

- 計量を中断している間、原料はバッファタンクに溜まります。
- 再開する場合は、[計量開始ボタン] を押してください。
- [電源ボタン] を長押しして中断した場合は、計量を再開する前に計量器からフレキシブルコンテナバッグを一旦搬出してください。(32ページ参照)

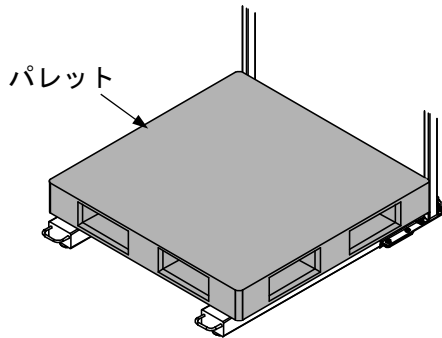
6. 計量を再開する方法（前回の作業の続きを行う場合）

計量完了せずに作業が終了し、指示計の電源を OFF にした場合、次の方法で計量を再開します。

フレキシブルコンテナバッグ



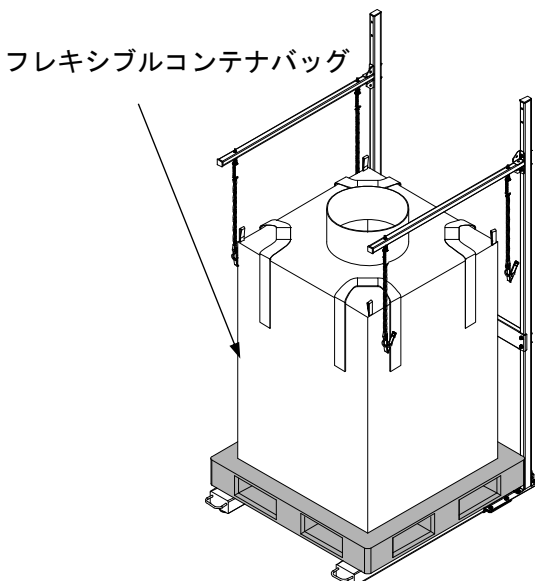
- 1) 計量器から計量物が入ったフレキシブルコンテナバッグを一時的に搬出します。



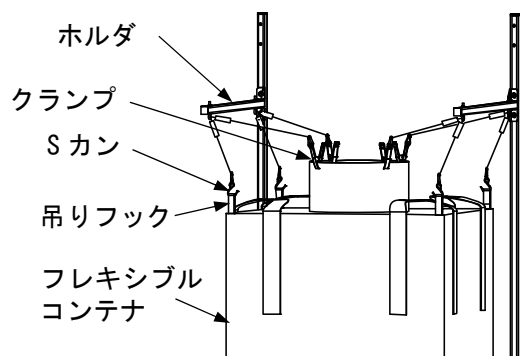
- 2) 計量器にパレットを設置します。



- 3) 指示計の [電源ボタン] を押し、電源 ON にします。



- 4) パレットの上に 1) で搬出したフレキシブルコンテナバッグを載せます。
● この場合は、総量での計量となります。



5) ホルダにフレキシブルコンテナバッグをセットします。

- S カンをフレキシブルコンテナバッグのフックに引っ掛けます。
- フレキシブルコンテナの内袋の投入口をクランプで挟みます。



6) [昇降機 ON ボタン] を押します。



7) [計量開始ボタン] を押し、計量を開始します。

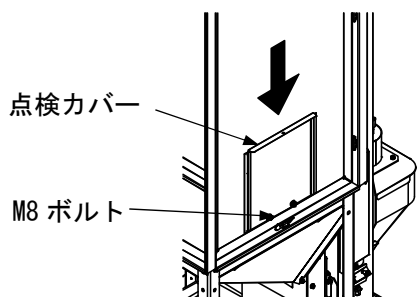
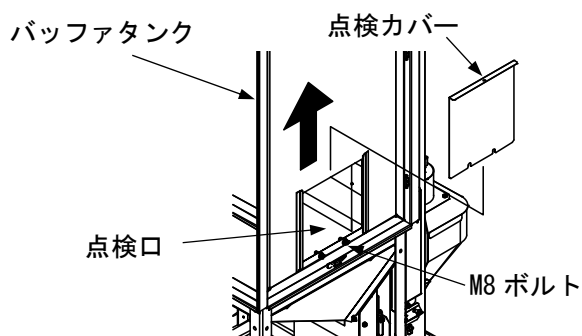
掃除

警告

- 各部の掃除を行う前には、必ず電源コネクタを抜いてから行ってください。
- 脚立を用いて清掃を行う場合は、脚立をしっかりと固定し、ヘルメットを着用して作業を行ってください。

注意

- 作業時には、手袋・長袖・長ズボン、安全眼鏡、ヘルメットなど、作業に適した服装および保護具を着用してください。
- ブローガンを使用して掃除を行う際は、保護メガネを着用し、人体に向けて使用しないでください。



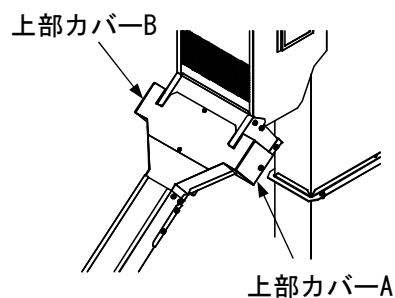
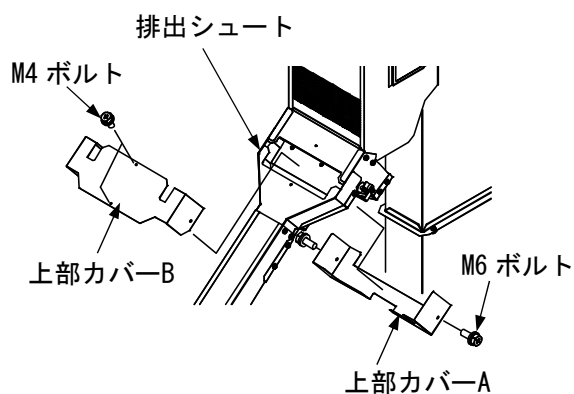
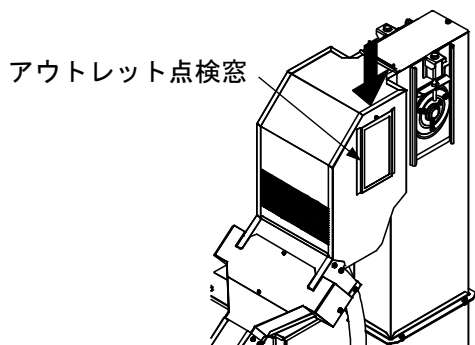
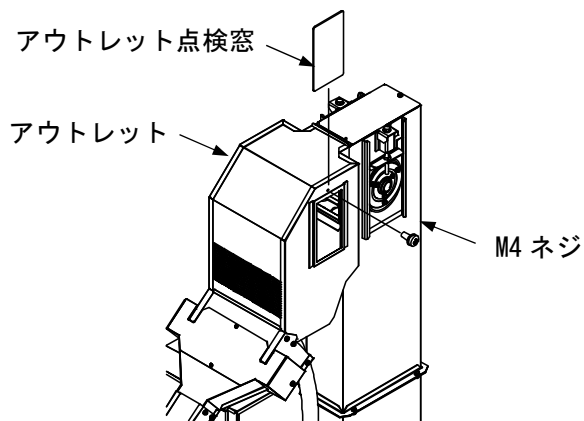
1) バッファタンクの清掃を行います。

(a) バッファタンク側面の点検カバーを取り外します。

- M8 ボルト(2本)を緩めます。

(b) 点検口からブローガン、掃除機などを使用してバッファタンク内部の清掃を行います。

(c) 清掃後、(a)で取り外した点検カバーを取り付けます。



2) アウトレットの清掃を行います。

(a) アウトレット点検窓を取り外します。

- M4 ネジを外します。
- 点検窓は投入ホッパ側を取り外します。

(b) 点検口からブローガン、掃除機などを使用してアウトレット内部の清掃を行います。

(c) 清掃後、(a)で取り外したアウトレット点検窓を取り付けます。

3) 排出シュートの清掃を行います。

(a) 上部カバーAを取り外します。

- M6 ボルト (2 本) を外します。

(b) 上部カバーBを取り外します。

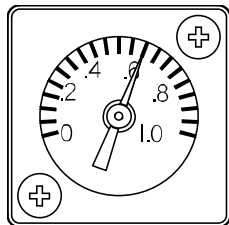
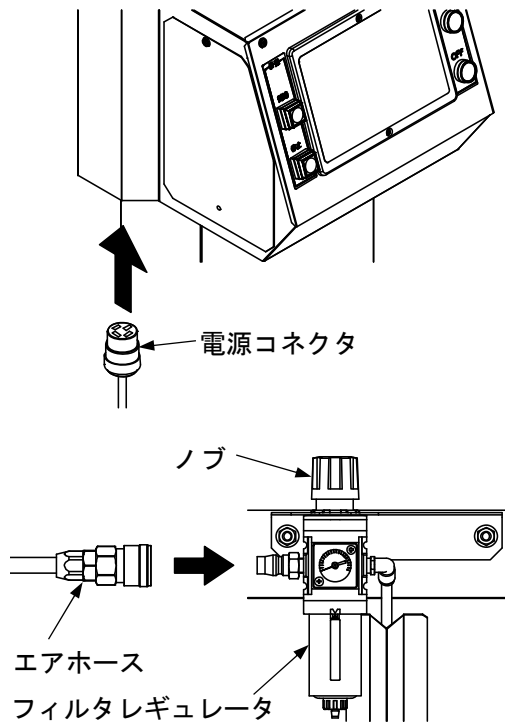
- M4 ボルト (2 本) を外します。

(c) 開口からブローガン、掃除機などを使用して排出シュートの清掃を行います。

(d) 清掃後、(a) (b)で取り外したカバーA、Bを取り付けます。

警告

- 残留排出運転前にすべてのカバー類が装着されていることを確認してください。
- 残留排出運転中は、投入ホッパの底に手や棒を差し込まないでください。



4) 昇降機の残留排出運転を行います。

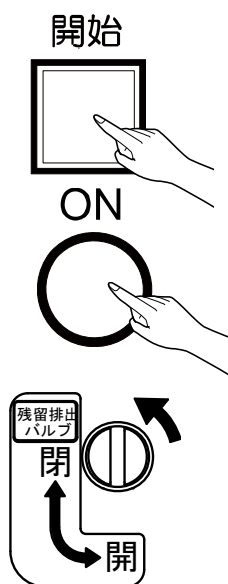
(a) 電源コネクタを接続します。

(b) フィルタレギュレータにエアホースを接続します。

- レギュレータのエア圧が 0.6 MPa になっていることを確認します。
- 0.6 MPa になっていない場合、レギュレータのノブを回してエア圧を調整してください。

取扱注意

- エア圧を調整するときは1度エア圧を下げて、上げながらエア圧を調整してください。
- エア圧は 0.7 MPa 以上に設定しないでください。エア機器が破損します。



(c) [計量開始ボタン] を押します。

- 計量シャッタが開きます。

(d) [昇降機ONボタン] を押します。

- 昇降機モータが回ります。

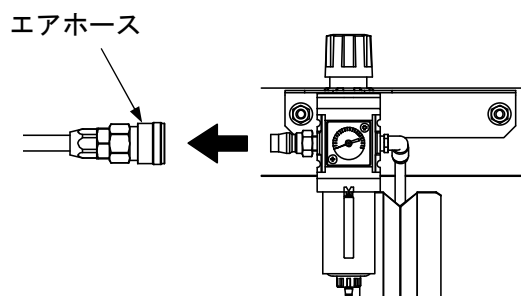
(e) 昇降機の[残留排出バルブ]を開きます。

- 昇降機下部にエアが噴射されます。

(f) 計量シャッタから穀物が出なくなるまでを目安とし、残留排出運転を行ってください。

補 足

- 残留排出を行う場合、20～30 秒毎に「残留排出バルブ：開」「昇降機：ON」⇔「残留排出バルブ：閉」「昇降機：OFF」を繰り返すことで効率良く残留排出を行うことができます。



(g) 残留排出運転後、電源コネクタを抜きます。

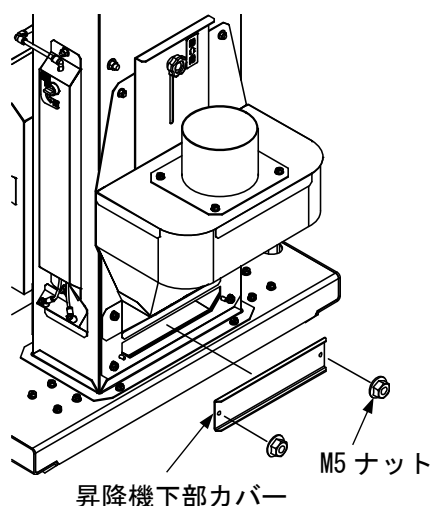
(h) エアホースをフィルタレギュレータから外します。

(i) 昇降機下部カバーを外します。

- M5 ナット（2 個）を外します。

(j) 昇降機下部の清掃を行います。

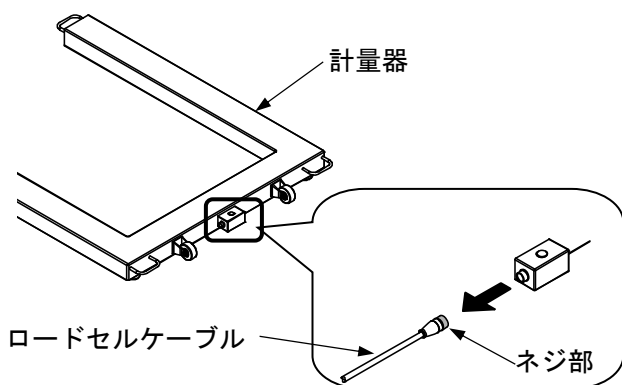
(k) (i) で取り外した昇降機下部カバーを取り付けます。



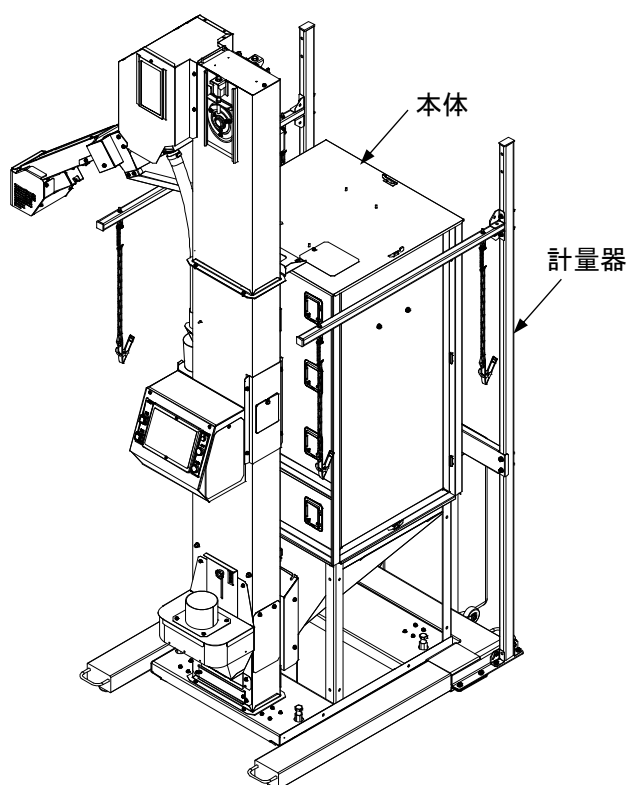
保管

取扱注意

- 作業を終了し、保管する前に、必ず機内・機外の掃除をしてください。
- できるだけ湿気のない、風通しの良い所に保管してください。
- 雷で計量器が故障することがありますので、必ず電源コネクタを抜いて保管してください。



- 1) 機械内部の掃除を行います。
(34ページ「掃除」参照)
- 2) ロードセルケーブルを計量器から外します。
 - 外したロードセルケーブルは本体に巻き付けてください。
- 3) 本体を保管場所に移動します。
- 4) 計量器は本体を挟むように収納します。
 - 左図のようにするとコンパクトに収納することができます。

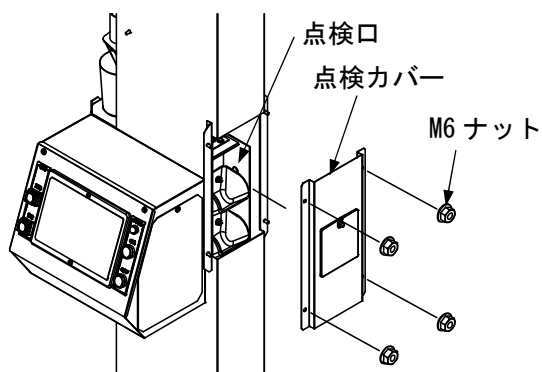


点検・調整

1. バケットベルトの張り確認・調整



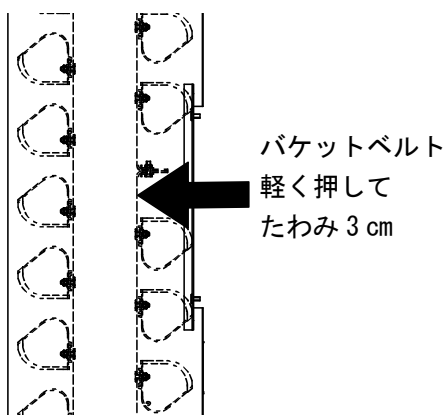
● バケットベルトの点検・調整は、電源コネクタを抜いてから行ってください。



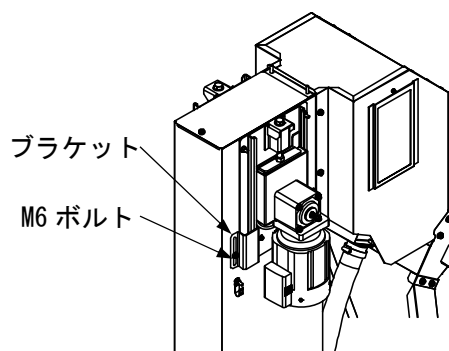
1) バケットベルトの張り具合を確認します。

(a) 昇降機の点検カバーを取り外します。

● M6 ナット（4 個）を外します。



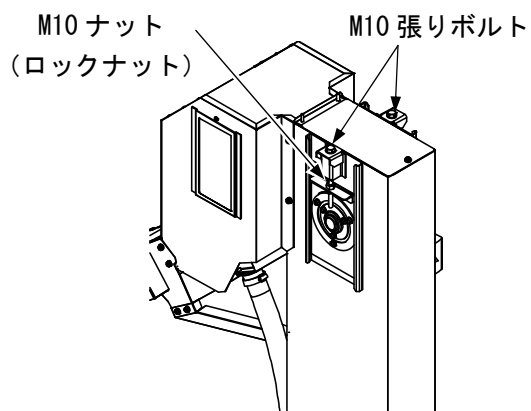
(b) バケットベルトを軽く押して、たわみ量が 3 cm 程度であることを確認します。



2) バケットベルトが緩んでいる場合、張り調整を行います。

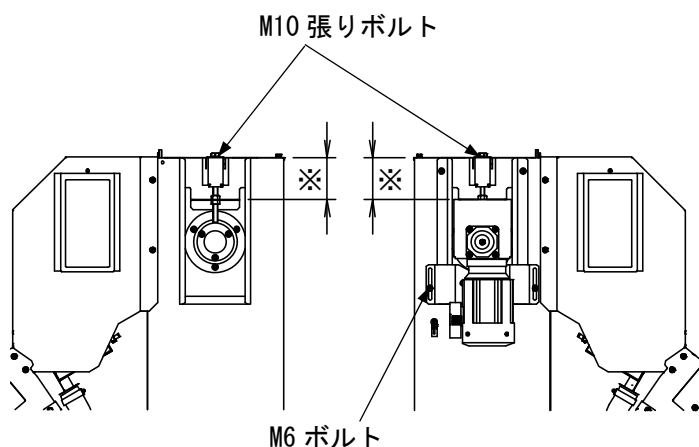
(a) 昇降機モータ側にあるブラケットのボルトを緩めます。

● M6 ボルト（2 本）を緩めます。



(b) 張りボルトを固定しているロックナットを緩めます。

- M10 ナット（2 個）を緩めます。



(c) 張りボルト締めます。

- M10 張りボルト（2 本）を少しずつ締めていきます。
- 左図の寸法（※）が左右で同程度になるように左右均等に張りボルトを調整します。
- バケットベルトを軽く押して、たわみ量が 3cm 程度になるように調整します。

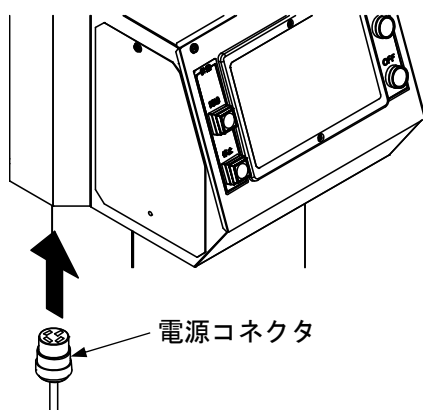
(d) (b)で緩めたロックナットを締めます。

- M10 ナットは下側に締め付けてください。

(e) (a)で緩めたM6ボルトを締め付けます。

2. 落差補正の調整

計量設定値に対して、計量シャッタが閉じるタイミングを変更することができます。
計量誤差が生じた際に調整してください。



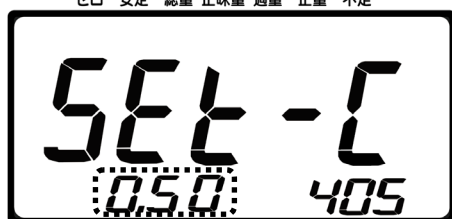
1) 電源コネクタを接続します。



計量値が少ない場合は減らします



計量値が多い場合は増やします



2) 落差補正を調整します。

(a) 電源OFFの状態では、指示計の計量設定ボタン [100 kg] を長押しします。

- 落差補正モードで電源が入ります。
- 計量設定値の表示箇所には、現在の設定値が表示されます。

【初期値：0.40】

(b) 計量設定ボタン [1 kg (+)] または [0.5 kg (-)] を押して落差補正を調整します。

- [1 kg (+)] または [0.5 kg (-)] を押すと、「0.01」刻みで数値が変化します。
- 計量完了時の計量値が、自動計量設定値より少ない場合は、落差補正の値を減らしてください。
- 計量完了時の計量値が、自動計量設定値より多い場合は、落差補正の値を増やしてください。
- 落差補正を行う際は、増減問わず「0.10」刻みを目安に調整することをおすすめします。

3) [電源ボタン] を長押しして電源を OFF にします。

- [電源 OFF ボタン] を押すことで設定が確定します。

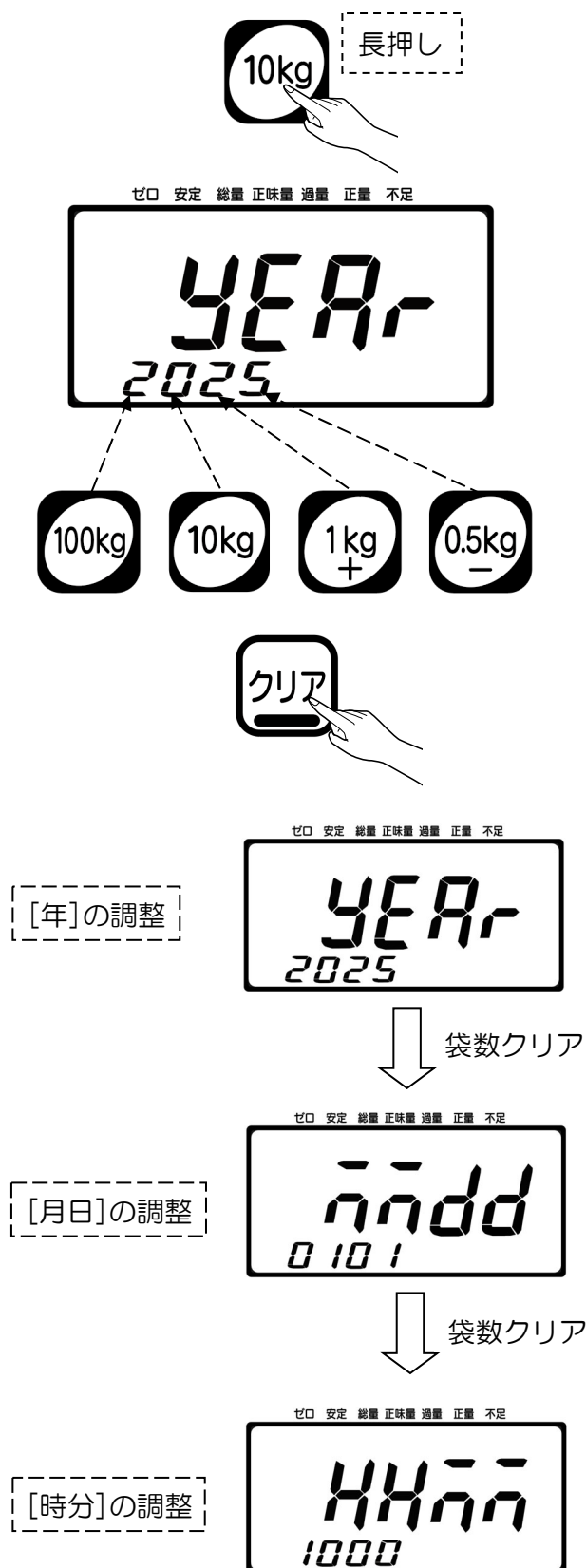
取扱注意

- 落差補正を調整後は、数回分の計量は計量誤差に注意してください。必要に応じて、落差補正を再調整してください。

3. 指示計の日時設定

オプションのプリンタに印字される日時の調整を行います。

※設定した日時が通常運転中に表示されることはありません。



1) 電源コネクタを接続します。

2) 指示計内部の日時を調整します。

(a) 電源OFFの状態で、指示計の計量設定ボタン [10 kg] を長押しします。

- 日時調整モードで電源が入ります。
- 計量設定値の表示箇所に、現在の設定値を表示します。

(b) 計量設定ボタン [100kg] [10kg] [1kg] [0.5kg] を押して、各桁の数値を変更します。

- 調整後[袋数クリアボタン]を押すと、数値が確定し、次の設定項目に移動します。
- 日時調整の項目は「年」→「月日」→「時間」の順です。

3) [電源ボタン] を長押しして電源を OFF にします。



4. ブザー音の設定

ブザー音の設定を行います。指示計の操作音と計量完了音の音量を変更することができます。

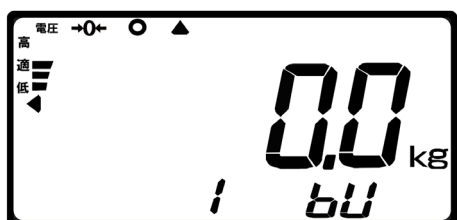
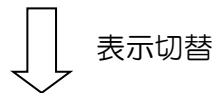
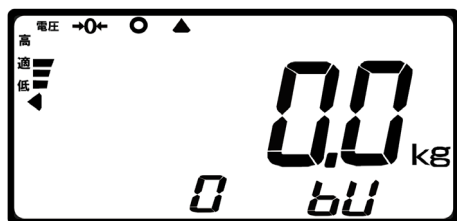
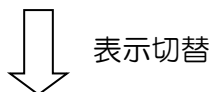
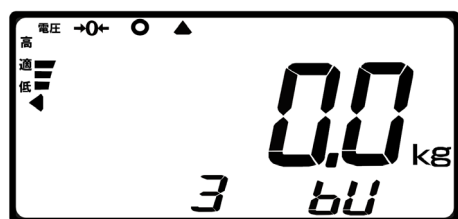


- 1) 電源コネクタを接続します。
- 2) 指示計の〔電源ボタン〕を押し、電源 ON にします。

- 3) ブザー音を調整します。

- (a) 電源ONの状態で、指示計の〔表示切替ボタン〕を長押しします。

- ブザー音設定画面になります。
- 計量設定値の表示箇所に、現在の設定値が表示されます。



- (b) 〔表示切替ボタン〕を押して、設定値を変更します。

【0】：操作音：小 計量完了音：オフ

【1】：操作音：小 計量完了音：小

【2】：操作音：中 計量完了音：中

【3】：操作音：大 計量完了音：大

【初期値：3】

- (c) ブザーの設定を確定します。

- 3 秒間、指示計のいずれのボタンも押さないでください。設定が確定します。
- 設定値が点滅している間に電源を OFF にしないでください。設定が確定しません。
- 設定が確定すると、表示が自動計量設定値に戻ります。

困ったときの対処のしかた

1. 異常・故障の場合の処置方法

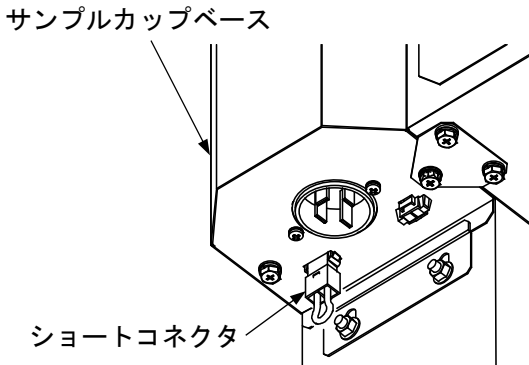


- 異常・故障の処置を行う前に、特に指示するときを除いて、電源コネクタを抜いてください。
- 本書の指示に従ったにもかかわらず、異常・故障が直らない場合はお買い上げの販売店またはJ Aに連絡してください。

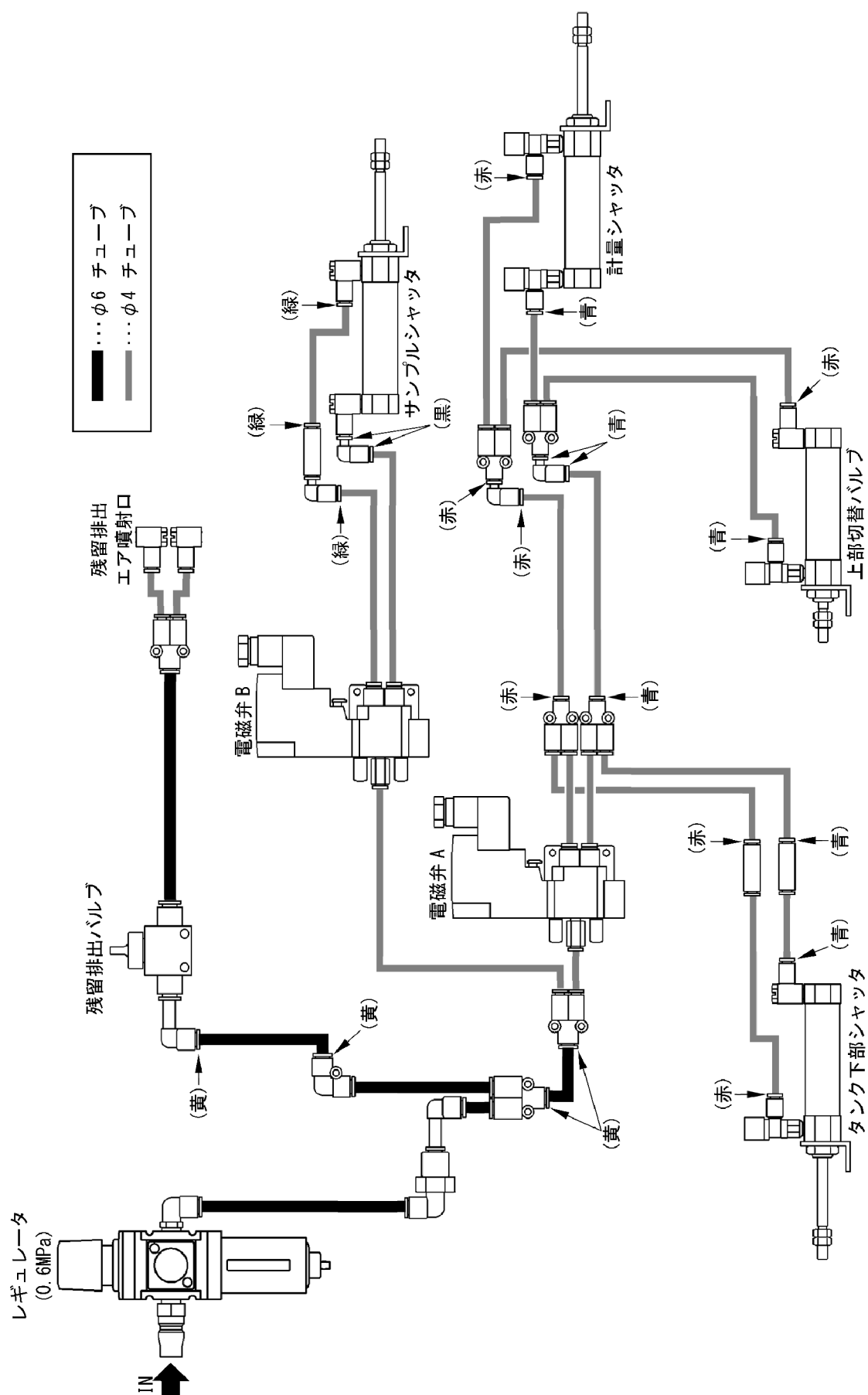
症 状	原 因	処 置 方 法
F F F F F を表示する	計量器のひょう量(計量可能範囲)を超えた計量物が載っている	ひょう量の範囲内で使用してください。 ● 計量器のひょう量は最大で1,500 kgです。
E E E E E を表示する	計量器のひょう量(計量可能範囲)を超えた計量物が載っている	ひょう量の範囲内で使用してください。 ● 計量器のひょう量は最大で1,500 kgです。
	ロードセルケーブルの取付不良または断線	ロードセルケーブルが正しく接続されているか確認してください。 お買い上げの販売店またはJ Aに連絡してください。
-E E E E E を表示する	ロードセルケーブルの取付不良または断線	ロードセルケーブルが正しく接続されているか確認してください。 お買い上げの販売店またはJ Aに連絡してください。
C C C C C を表示する	計量物(150 kg 以上のもの)を載せて電源をONにした	パレット以外のものは載せないで電源ONしてください。 (25ページ参照)
	ロードセルケーブルの取付不良または断線	ロードセルケーブルが正しく接続されているか確認してください。 お買い上げの販売店またはJ Aに連絡してください。
----- を表示する	計量完了後、計量物を搬出した際に表示されます。	故障ではありません。 計量器の上にパレットを載せると正常な表示に戻ります。
	ロードセルケーブルの取付不良または断線	ロードセルケーブルが正しく接続されているか確認してください。 お買い上げの販売店またはJ Aに連絡してください。

困ったとき

症 状	原 因	処 置 方 法
d L C E 1 を表示する	ロードセルケーブルの 取付不良または断線	ロードセルケーブルが正しく接続されているか確認して ください。 お買い上げの販売店または J A に連絡してください。
E L P を表 示する	電源電圧の異常 (170V 未満または 220V 以上)	電源電圧を確認してください。
r t c を表 示する	指示計の時計異常	指示計内の基板に搭載されているボタン電池 (CR2032) を 交換してください。 交換後、日時の調整を行ってください。(42ページ参照)
P E を表示 する	プリンタ (オプショ ン) の異常	● プリンタの電源を投入してください。 ● プリンタの用紙を確認してください。 ● プリンタのケーブルを確認してください。
E r r o r を表示する	基板エラー	お買い上げの販売店または J A に連絡してください。
計量誤差が 出る	計量器と本体が接触し ている	計量器と本体が接触しないように据え付けてください。
	フレキシブルコンテナ バッグと本体が接触し ている	フレキシブルコンテナバッグが本体に接触しないように 据え付けてください。
	ロードセルケーブルが 計量器に接触している	余ったロードセルケーブルが計量器に接触しないように してください
	計量設定値の決め方が 間違っている	正しく設定してください。 (21ページ参照)
	計量器にフレキシブル コンテナバッグをセッ トした状態で電源 ON にした	電源 ON にする前にフレキシブルコンテナバッグをセッ トしないでください。
	計量器がガタついてい る	計量器のアジャストボルトを調整して、ガタつきをなくし てください。(15ページ参照)
	計量器の輸送用ゴム足 が床面に接触している	アジャストボルトで輸送用ゴム足が床面に接触しないよ うにしてください。(15ページ参照)
	パレットが変形して地 面に接触している	質量 19 kg 以上のパレットを使用してください。 (25ページ参照) パレットが変形する場合は、オプションのパレットガード を設置してください。(48ページ参照)

症 状	原 因	処 置 方 法
指示計が何も表示しない	電源コネクタを入っていない	電源コネクタを確実に差し込んでください。 (17ページ参照)
	指示計内のヒューズが切れている	指示計内の基板にあるヒューズ（5A）を交換してください。ヒューズサイズ：φ6.4×30 mm ※ 基板上にヒューズは2本あります。
昇降機が動かない	サーマルが動作している	昇降機内の詰まりを除去して、サーマル復帰後（約5分後）に起動してください。
	電源が欠相している	電源電線の状態を確認してください。
[計量開始ボタン]を押しても計量シャッタが開かない	ショートコネクタの取付不良または断線	サンプルカップベース下に付属のショートコネクタが正しく取り付けられているか確認してください。  サンプルカップベース ショートコネクタ

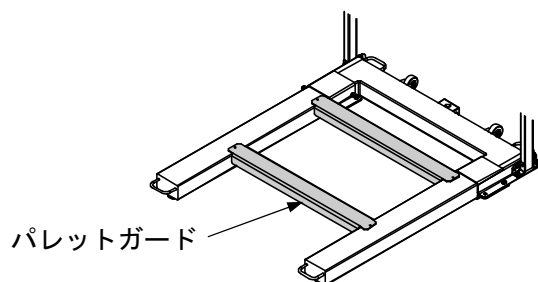
エア配管図



オプション部品

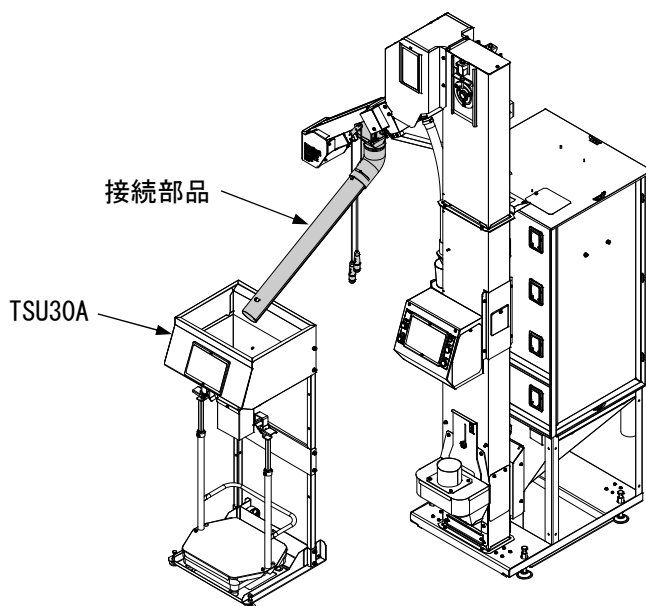
■パレットガード（注文コード：AFK100AAZ50）

- 計量器の上に設置し、パレットのしなりや破損を防止する場合に使用します。
- 軽量パレットを使用する際は使用してください。



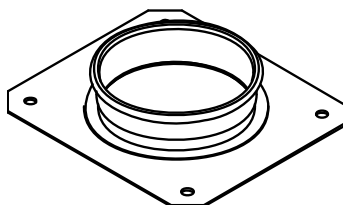
■ 30 kg計量器接続部品（注文コード：AFK100AAZ51）

- 30 kg計量器（TSU30A）を接続する際に使用します。
- TSU30Aは別売りです。（注文コード：1TSU30AAAZA）



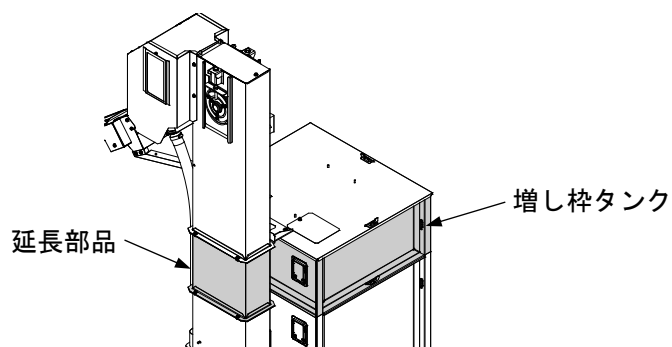
■ 投入口（4インチカールフランジ仕様）（注文コード：AFK100AAZ61）

- 投入ホッパに 4インチの配管を接続する際に使用します。
- カールフランジ仕様です。



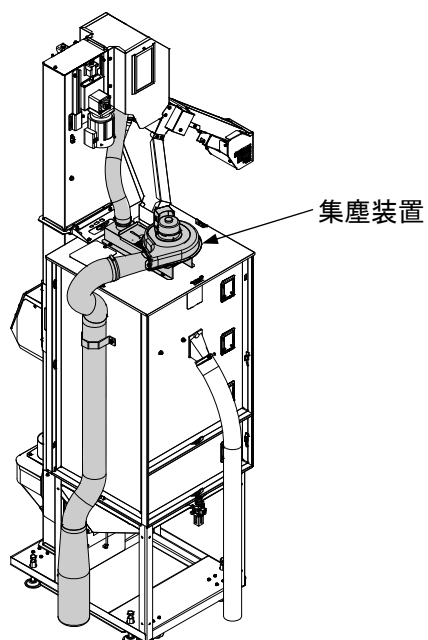
■ 増し枠タンク（注文コード：AFK100AAZ52）

- バッファタンクの容量を約100 kg増やす際に使用します。
- 昇降機の延長部品も含まれます。



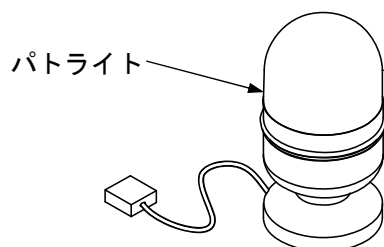
■ 集塵装置（注文コード：AFK100AAZ53）

- 昇降機から排出される精品に含まれる塵埃を、アウトレットで風選する場合に使用します。
- ファンと吸排気ダクトのセットです。



■ パトライト（注文コード：AFK100AAZ55）

- 本体付属の状態表示LEDだけでは機体の運転状態が確認しにくい場合に使用します。
- パトライト底面にはマグネットが付いており、貼り付けて使用することができます。
- お好みの場所に設置できるように 5mのケーブルが付属しています。



■ もみすり機循環排出連動ケーブル（5m）

（4、5インチ用 注文コード：AFK100AAZ56）

（6インチ用 注文コード：AFK100AAZ57）

- 本機の昇降機が停止している際やバッファタンクの満量センサが動作した際に、もみすり機（4、5、6インチ）を自動で循環運転に切り替えることができます。

■ もみすり機循環排出連動延長ケーブル（5m）

（4、5、6インチ共通 注文コード：AFK100AAZ58）

- 長さが足りない場合は延長ケーブルを使用します。

消耗部品

消耗部品は、表 5を目安に事前に準備されることをお勧めします。

表 5 消耗部品一覧表

品 名	部品コード	交換の目安
バケットベルト一式	151903030	250～300 時間

※ 表 5 消耗部品一覧表の交換の目安は、地域、品種・水分、使用条件等により異なる場合があります。

仕様

表 6 仕様一覧表

名 称		フレキシブルコンテナ計量器
型 式		AFK-1000
区 分		—
処理能力 (kg/h)		1,000 注1～3,000
機体寸法 (mm)	本体	W : 1,450×D:1,150×H : 2,890
	計量器 (ホルダ含む)	W : 1,075×D:1,345×H : 2,385
機体質量 (本体+計量器) (kg)		220 (150+70)
所要動力	定格電圧 (V)	三相 200
	定格周波数 (Hz)	50/60
	定格出力 (kW)	0.2
各シャッター・バルブの動作方式		エアシリンダ (4 個)
必要エア量 (L/min)		165 (20 注2)
レギュレータ設定エア圧 (MPa)		0.6
計量器 (ロードセル)	ひょう量 (kg)	1,500
	目 量 (kg)	0.5
	自動計量設定範囲 (kg)	10.0～1,500 (0.5 kg 間隔)
	計量実精度 (kg)	±0.5
昇降機回転数 (r/min)	50 Hz	207
	60 Hz	250
タンク	最大容量 (kg)	500
	オーバーフロー目安 (kg)	400
初期ゼロ点範囲 (kg) 注3		-150～+150
手動ゼロ点範囲 (kg) 注4		-30～+30
風袋引き範囲 (kg)		0～1,500
使用可能温度 (°C)		-10～40
処理可能な原料名		玄米、麦

注1. 処理能力 1,000 kg/h 未満で使用すると、計量誤差が発生する可能性があります。

注2. 自動計量に最低限必要なエア量です。残留排出運転を行うことができません。

注3. 電源 ON のとき、計量値を 0.0 kg にすることができる範囲

注4. 電源 ON のあと、手動で計量値を 0.0 kg にすることができる範囲

機体寸法

単位：mm

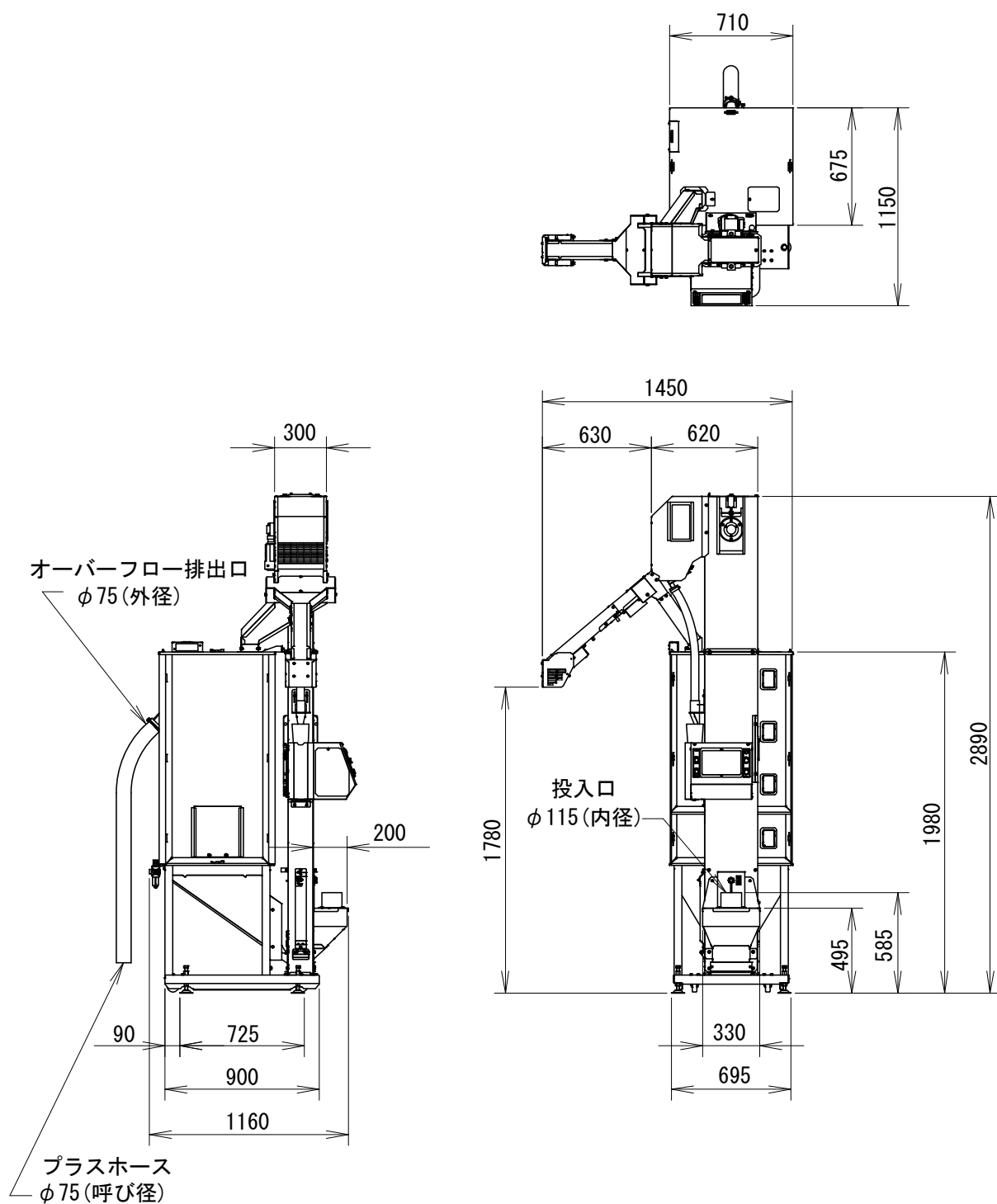


図 7 機体寸法図（本体）

その他

単位：mm

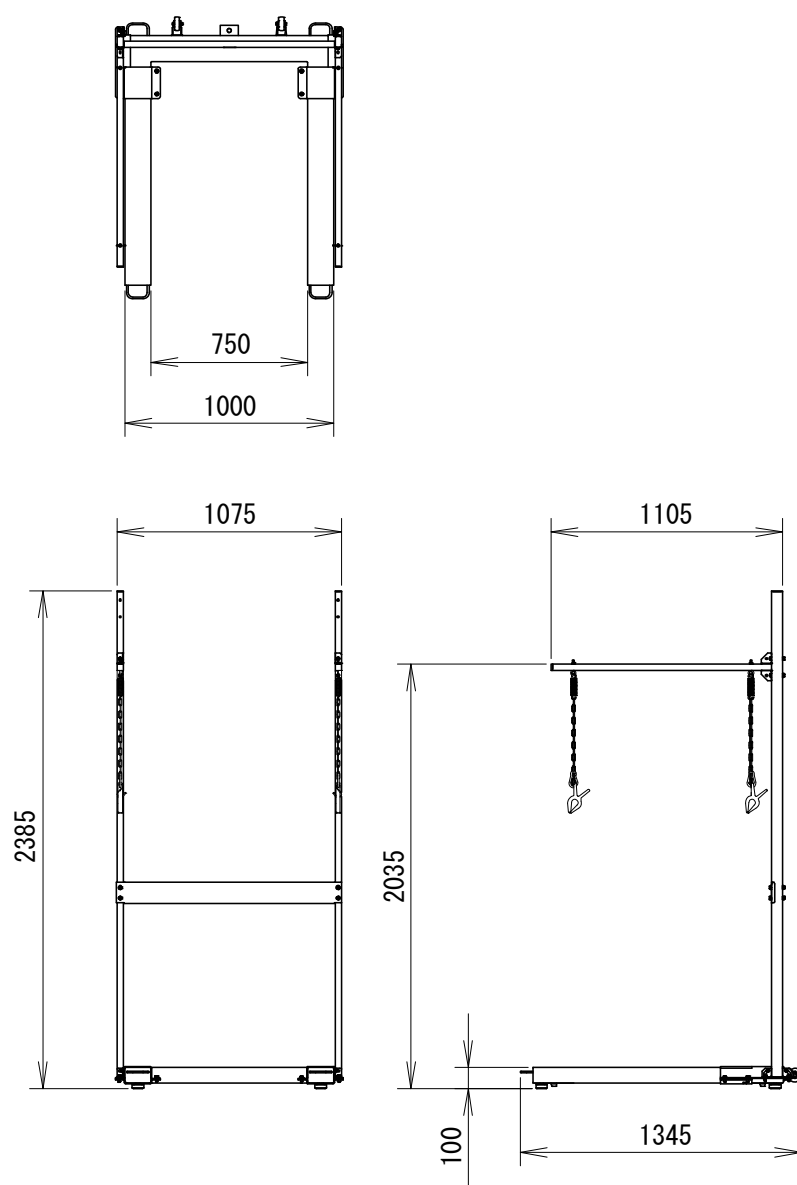


図 8 機体寸法図（計量器）

検定付きはかりについて

- 本製品の計量器には、取引・証明に使用できる「検定付はかり」を採用しています。
- 取引・証明に「検定付はかり（非自動はかり）」を使用する場合は、法令で 2 年に 1 度の「定期検査」または「代検査」を受けることが定められています。

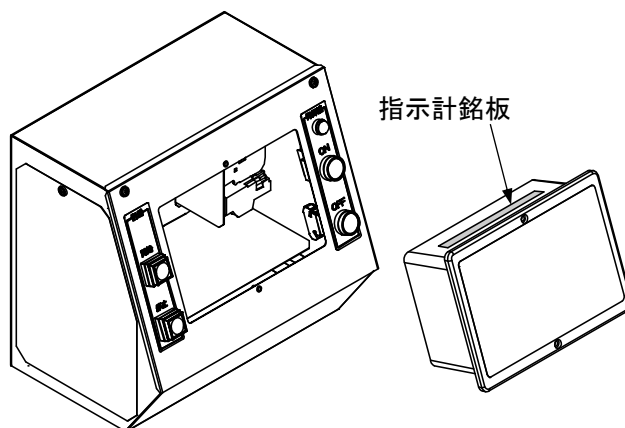
※ 検査の実施については、都道府県計量検定所にお問い合わせください。

取引・証明に使用しない場合は、定期検査は不要です。

- 検定付はかりは、使用できる地域が定められています。指示計の銘板に重力加速度が表示されていますので、下表を参照し、使用地域を守ってお使いください。

表 7 重力加速度別の使用可能地域一覧

重力加速度 (m/s^2)	使用可能な都道府県
9.803～9.807	北海道
9.800～9.804	青森、岩手、秋田、宮城
9.798～9.802	宮城、山形、福島、茨城、新潟
9.796～9.800	栃木、群馬、埼玉、千葉、東京（小笠原・八丈除く）、神奈川、富山、石川、福井、山梨、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口
9.795～9.799	群馬、埼玉、千葉、東京（小笠原・八丈除く）、神奈川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎
9.794～9.798	東京（小笠原・八丈含む）、神奈川、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、大阪、奈良、和歌山、鳥取、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島（奄美市・大島郡を除く）
9.791～9.794	鹿児島（奄美市・大島郡）
9.789～9.792	沖縄



保証とアフターサービス

取り扱い・修理などのご相談は、お買い上げの販売店またはＪＡまでお申し付けください。

■保証書（別添付）

- 保証書は必ず、「納入日、販売店名・ＪＡ」などの記入をお確かめの上、販売店またはＪＡからお受け取りください。
- 内容をよく確かめたあと、大切に保管してください。

保証期間は、納入日から１年間です。

■補修用部品の供給年限

- 本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後10年とします。
ただし、供給年限内にあっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合があります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給の要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

■修理を依頼される時には

- 「困ったときの対処のしかた」（44～46ページ）に従っても直らない場合は、お買い上げの販売店またはＪＡにご連絡ください。

〔保証期間中は〕

- 修理に際しては、保証書をご提示ください。
- 保証書の規定に従って修理させていただきます。

〔保証期間が過ぎているときは〕

- 修理すれば使用できる場合は、ご希望により修理させていただきます。

〔修理料金は〕

- 修理料金＋部品代で構成しています。

緊急時の連絡先

機械が異常な作動をし、原因が不明で適切な処置が行えない場合、または運転操作方法等に不明な点がある場合は、以下の窓口へご連絡ください。

〔１〕販売店・ＪＡ（購入時にお客様にてご記入ください）

店名：
緊急時の連絡先：
担当者：

〔２〕最寄りの営業所

●販売店・ＪＡに連絡がつかない場合は、最寄りの営業所へご連絡ください。

営業所／所在地	TEL（代表）	FAX	〒
北海道営業所／札幌市白石区中央３条３丁目６-４４	011（812）3666	011（820）2007	003-0013
北上営業所／岩手県北上市川岸１丁目１６-１（サタケ東北内）	0197（64）0111	0197（61）0001	024-0032
秋田営業所／秋田市仁井田字中谷地１２１-２	018（839）0891	018（889）6001	010-1423
仙台営業所／宮城県仙台市若林区六丁の目西町７-３３	022（287）2733	022（390）1017	984-0011
小山営業所／栃木県小山市駅南町４丁目３１	0285（27）5060	0285（31）1002	323-0822
柏営業所／千葉県柏市大室１１５３	04（7132）1181	04（7140）8018	277-0813
新潟営業所／新潟市中央区長潟３丁目８-１６	025（287）0177	025（257）1103	950-0932
名古屋営業所／愛知県一宮市赤見１丁目２-２８	0586（73）2177	0586（26）1040	491-0023
北陸営業所／石川県白山市源兵衛町７９３-１	076（277）2085	076（277）8010	924-0052
大阪営業所／大阪府豊中市稲津町２丁目５-１	06（6867）6015	06（6867）6073	561-0854
広島営業所／広島県東広島市西条西本町２５-２９ アソカビル３Ｆ	082（420）8575	082（420）0010	739-0043
松山営業所／愛媛県伊予市市場４８５-１	089（982）6990	089（997）3231	799-3122
福岡営業所／福岡県太宰府市国分１丁目７-１	092（921）6111	092（920）1030	818-0132
熊本営業所／熊本市東区西原３丁目３-２９	096（382）2727	096（386）2007	861-8029

〔３〕製造元 株式会社

広島本社／広島県東広島市西条西本町２-３０ 〒739-8602

●最寄りの営業所に連絡がつかない場合は、以下の窓口へご連絡ください。

■お客様サポートセンター	TEL：082（420）8543	FAX：082（420）0009
■本社営業窓口 [調製機事業本部]	TEL：082（420）8541	FAX：082（420）0005
■大代表	TEL：082（420）0001	

株式会社 **サタケ**

サタケのホームページ
<https://www.satake-japan.co.jp>

□広島本社／〒739-8602 広島県東広島市西条西本町 2-30 TEL 082 (420) 0001 (大代表)
□東京本社／〒101-0021 東京都千代田区外神田 4-7-2 TEL 03 (3253) 3111 (代表)
□営業拠点／北海道、北上、秋田、仙台、小山、東京、柏、新潟、名古屋、北陸、大阪、
広島、松山、九州、福岡、熊本

□サタケグループ／

株式会社サタケ、サタケ東北株式会社、サタケ豊栄株式会社、
サタケグレインマシナリー株式会社、

SATAKE USA INC.、SATAKE AMERICA LATINA LTDA.、SATAKE EUROPE LTD.、
SATAKE AUSTRALIA PTY. LTD.、SATAKE (THAILAND) CO., LTD.、
SATAKE ASIA CO.,LTD.、SATAKE INDIA ENGINEERING PVT.LTD.、
佐竹機械（蘇州）有限公司、佐竹軟件技術（蘇州）有限公司

Copyright (C) 2025 Satake Corporation. All rights reserved.

I2AFK100AAZA-X2506D-D